校異源氏物語・わかな上

朱雀院の御門ありしみゆきの後其比ほひよりれいならすなやみわたらせ給もとよりあつしくおはしますうちにこのたひは物心ほそくおほしめされてとしころをこなひのほいふかきをきさいの宮おはしましつる程はよろつはゝかりきこえさせ給ていまゝておほしとゝこほりつるを猶そのかたにもよをすにやあらむ世にひさしかるましき心ちなんするなとのたまはせてさるへき御心まうけともせさせ給ふ御こたちは春宮をゝきたてまつりて女宮たちなん四ところおはしましけるその中にふちつほときこえしは先帝の源氏にそおはしましけるまた坊ときこえさせし時まいり給てたかきくらゐにもさたまり給へかりし人のとりたてたる御うしろみもおはせすはゝかたもそのすちとなく物はかなきかういはらにてものし給けれは御ましらひの程も心ほそけにておほきさいの内侍督をまいらせたてまつり給てかたはらにならふ人なくもてなしきこえなとせし程にけおされてみかとも御心の中にいとおしき物には思きこえさせ給なからおりさせ給にしかはかひなくくちおしくて世の中をうらみたるやうにてうせ給にしその御はらの女三宮をあまたの御中にすくれてかなしき物に思かしつきゝこえ給その程御とし十三四はかりおはすいまはとそむきすて山こもりしなん後の世にたちとまりてたれをたのむかけにて物し給はんとすらむとたゝこの御事をうしろめたくおほしなけくににし山なる御寺つくりはてゝうつろはせ給はん程の御いそきをせさせ給にそへて又この宮の御もきの事をおほしいそかせ給院のうちにやんことなくおほす御たから物御てうとゝもをはさらにもいはすはかなき御あそひ物まてすこしゆへあるかきりをはたゝこの御方にとりわたしたてまつらせ給てそのつき　くをなむことみこたちには御そふふんともありける春宮はかゝる御なやみにそへて世をそむかせ給へき御心つかひになときかせ給てわたらせ給へりはゝ女御もそひきこえさせ給てまいり給へりすくれたる御おほえにしもあらさりしかと宮のかくておはします御すくせのかきりなくめてたけれはとし比の御物かたりこまやかにきこえさせ給けり宮にもよろつの事世をたもち給はん御心つかひなときこえしらせ給御うしろみともゝこなたかなたかろ　くしからぬなからひにものし給へはいとうしろやすく思きこえさせ給この世にうらみのこる

事も侍らす女宮たちのあまたのこりとゝまる行さきをおもひやるなんさらぬ別
にもほたしなりぬへかりけるさきさき人のうへにみきゝしにも女は心よりほか
にあは　くしく人におとしめらるゝすくせあるなんいとくちおしくかなしきい
つれをも思やうならん御世にはさま　くにつけて御心とゝめておほしたつねよ
その中にうしろみなとあるはさるかたにも思ゆつり侍り三宮なむいはけなきよ
はひにてたゝひとりをたのもしき物とならひてうちすてゝむ後の世にたゝよひ
さすらへむことといと　くうしろめたくかなしく侍と御目おしのこひつゝきこえ
しらせさせ給女御にも心うつくしきさまにきこえつけさせ給されと女御の人よ
りはまさりてときめき給ひしにみないとみかはし給しほと御なからひともえう
るはしからさりしかはそのなこりにてけにいまはわさとにくしなとはなくとも
まことに心とゝめて思うしろみむとまてはおほさすもやとそおしはからるゝか
しあさ夕にこの御ことをおほしなけくとしくれ行まゝに御なやみまことにをも
くなりまさらせ給てみすのとにもいてさせ給はす御もののけにて時〻なやませ
給こともありつれといとかくうちはへをやみなきさまにはおはしまさゝりつる
をこのたひは猶かきりなりとおほしめしたり御くらいをさらせ給つれと猶その
世にたのみそめたてまつり給へる人〻はいまもなつかしくめてたき御ありさま
を心やり所にまいりつかうまつり給かきりは心をつくしておしみきこえ給ふ六
条院よりも御とふらひしは　くあり身つからもまいり給へきよしきこしめして
院はいといたくよろこひきこえさせ給中納言の君まいり給へるをみすのうちに
めしいれて御物かたりこまやかなり故院のうへのいまはのきさみにあまたの御
ゆひこんありし中にこの院の御こといまのうちの御事なんとりわきての給をき
しをおほやけとなりてことかきりありけれはうち　くの御心よせはかはらすな
からはかなきことのあやまりに心をかれたてまつる事もありけんと思ふをとし
ころことにふれてそのうらみのこし給へるけしきをなんもらし給はぬさかしき
人といへと身のうへになりぬれはことたかひて心うこきかならすそのむくひみ
えゆかめる事なんいにしへたにおほかりけるいかならんおりにかその御心はへ
ほころふへからむと世人もおもむけうたかひけるをつゝにしのひすくし給て春
宮なとにも心をよせきこえ給いまはた又なくしたしかるへき中となりむつひか
はし給へるもかきりなく心には思ひなから本上のをろかなるにそへてこのみち
のやみにたちましりかたくなるさまにやとて中　くよその事にきこえはなち
たるさまにてはへる内の御事はかの御ゆいこんたかへすつかうまつりをきてし
かはかくするゑの世のあきらけき君としてきしかたの御おもておもおこし給ふほ

いのことといとうれしくなんこの秋の行幸の後いにしへの事とりそへてゆかしくおほつかなくなんおほえ給たいめんにきこゆへき事ともはへりかならすみつからとふらひものし給へきよしもよをし申給へなとうちしほたれつゝのたまはす中納言の君すき侍にけんかたはともかくもおもふたまへわきかたくはへりとしまかりいり侍ておほやけにもつかうまつり侍あひた世中のことをみたまへまかりありく程には大小のことにつけてもうち　くのさるへき物かたりなとのついてにもいにしへのうれはしきことありてなんなとうちかすめ申さるゝおりは侍らすなんかくおほやけの御うしろみをつかうまつりさしてしつかなる思をかなへむとひとへにこもりゐし後はなに事をもしらぬやうにて故院の御ゆいこんのこともえつかうまつらす御くらゐにおはしましゝ世にはよはひの程も身のうつは物もをよはすかしこきかみの人ゝおほくてその心さしをとけて御らむせらるゝ事もなかりきいまかくまつりことをさりてしつかにおはしますころほひ心のうちをもへたてなくまいりうけたまはらまほしきをさすかになにとなく所せき身のよそほひにてをのつから月日をすくす事となんおり　くなけき申給なとそうし給二十にもまたわつかなる程なれといとよくとゝのひすくしてかたちもさかりににほひていみしくきよらなるを御めにとゝめてうちまもらせ給つゝこのもてわつらはせ給ひめ宮の御うしろみにこれをやなと人しれすおほしよりけりおほきおとゝのわたりにいまはすみつかれにたりとなとし比心えぬさまにきゝしかいとおしかりしをみゝやすき物からさすかにねたく思ことこそあれとのたまはする御けしきをいかにのたまはするにとあやしく思めくらすにこのひめ宮をかくおほしあつかひてさるへき人あらはあつけて心やすく世をも思はなれはやとなんおほしのたまはするとをのつからもりきゝ給たよりありけれはさやうのすちにやとは思ぬれとふと心えかほにもなにかはいらへきこえさせんたゝはか　くしくも侍らぬ身にはよるへもさふらひかたくのみなんとはかりそうしてやみぬ女房なとはのそきてみきこえていとありかたくもみえ給かたちよういかなあなめてたなとあつまりてきこゆるをおいしらへるはいてさりともかの院のかはかりにおはせし御ありさまにはえなすらひきこえ給はさめりいとめもあやにこそきよらにものし給しかなといひしろふをきこしめしてまことにかれはいとさまことなりし人そかしいまは又その世にもねひまさりてひかるとはこれをいふへきにやとみゆるにほひなんいとゝくはゝりにたるうるはしたちてはか　くしきかたにみれはいつくしくあさやかにめもをよはぬこゝちするを又うちとけてたはふれことをもいひみたれあそへはそのかたにつけてはにる物なくあ

い行つきなつかしくうつくしきことのならひなきこそ世にありかたけれなに事
にもさきの世おしはかられてめつらかなる人のありさまなり宮のうちにおひい
てゝていわうのかきりなくかなしき物にしたまひさはかりなてかしつきみにか
へておほしたりしかと心のまゝにもおこらすひけして廿か内には納言にもなら
すなりにきかしひとつあまりてや宰相にて大将かけ給へりけんそれにこれはい
とこよなくすゝみにためるはつき　くのこのよのおほえのまさるなめりかしま
ことにかしこきかたのさえ心もちゐなとはこれもおさ　くおとるましくあやま
りてもおよすけまさりたるおほえいとことなめりなとめてさせ給ひめ宮のいと
うつくしけにてわかくなに心なき御ありさまなるをみたてまつり給にもみはや
したてまつりかつは又かたをひならむ事をはみかくしをしへきこえつへからむ
人のうしろやすからむにあつけきこえはやなときこえ給おとなしき御めのとゝ
もめしいてゝ御もきの程の事なとのたまはするついてに六条のおとゝの式部卿
のみこのむすめおほしたてけんやうにこの宮をあつかりてはくゝまん人もかな
たゝ人の中にはありかたし内には中宮さふらひ給つき　くの女御たちとてもい
とやんことなきかきり物せらるゝにはか　くしきうしろみなくてさやうのまし
らひいと中　くならむこの権中納言の朝臣のひとりありつる程にうちかすめて
こそ心みるへかりけれわかけれといときやうさくにおいさきたのもしけなる人
にこそあめるをとの給はす中納言はもとよりいとまめ人にてとし比もかのわた
りに心をかけてほかさまに思うつろふへくも侍らさりけるにそのおもひかなひ
てはいとゝゆるくかた侍らしかの院こそ中　く猶いかなるにつけても人をゆか
しくおほしたる心はたえす物せさせ給ふなれその中にもやむことなき御ねかひ
ふかくて前斎院なとをもいまにわすれかたくこそきこえ給なれと申すいてその
ふりせぬあたけこそはいとうしろめたけれとはの給すれとけにあまたの中にか
ゝつらひてめさましかるへきおもひはありとも猶やかておやさまにさためたる
にてさもやゆつりをきゝこえましなともおほしめすへしまことにすこしもよつ
きてあらせむと思はん女こもたらはおなしくはかの人のあたりにこそはふれは
はせまほしけれいくはくならぬこの世のあひたはさはかり心ゆくありさまにて
こそすくさまほしけれわれ女ならはおなしはらからなりともかならすむつひよ
りなましわかゝりし時なとさなんおほえしまして女のあさむかれんはいとこと
はりそやとの給はせて御心の中にかむの君の御事もおほしいてらるへしこの御
うしろみともの中にをも　くしき御めのとのせうと左中弁なるかの院のしたし
き人にてとしころつかうまつるありけりこの宮にも心よせことにてさふらへは

まいりたるにあひて物かたりするついてにうへなむしか　く御けしきありてきこえ給しをかの院におりあらはもらしきこえさせ給へみこたちはひとりおはしますこそはれいの事なれとさま　くにつけて心よせたてまつりなに事につけても御うしろみし給人あるはたのもしけなりうへをゝきたてまつりて又ま心におもひきこえ給へき人もなけれはおのらはつかうまつるとてもなにはかりの宮つかへにかあらむ我心ひとつにしもあらてをのつからおもひのほかの事もおはしましかる　くしききこえもあらむ時にはいかさまにかはわつらはしからむ御らんする世にともかくもこの御ことさたまりたらはつかうまつりよくなんあるへきかしこきすちときこゆれと女はいとすくせさためかたくおはします物なれはよろつになけかしくかくあまたの御中にとりわききこえさせ給につけても人のそねみあへかめるをいかてちりもするゑたてまつらしとかたらふに弁いかなるへき御事にかあらむ院はあやしきまて御心なかくかりにてもみそめ給へる人は御心とまりたるをも又さしもふかゝらさりけるをもかた　くにつけてたつねとり給つゝあまたつとへきこえ給へれとやんことなくおほしたるはかきりありてひとかたなめれはそれにことよりてかひなけなるすまひし給ふかた　くこそはおほかめるを御すくせありてもしさやうにおはしますやうもあらはいみしき人ときこゆともたちならひておしたち給事はえあらしとこそはおしはからるれと猶いかゝとはゝからるゝことありてなんおほゆるさるはこの世のさかえするゑの世にすきて身に心もとなきことはなきを女のすちにてなん人のもときをもおひ我心にもあかぬ事もあるとなんつねにうち　くのすさひことにもおほしの給はすなるけにをのれらかみたてまつるにもさなんおはしますかた　くにつけて御影にかくし給へる人みなその人ならすたちくたれるきはにはものし給はねとかきりあるたゝ人ともにて院の御ありさまにならふへきおほえくしたるやはおはすめるそれにおなしくはけにさもおはしまさはいかにたくひたる御あはひならむとかたらふをめのと又ことのついてにしか　くなんなにかしのあそむにほのめかし侍しかはかの院にはかならすうけひき申させ給てむとし比の御ほいかなひておほしぬへきことなるをこなたの御ゆるしまことにありぬへくはつたへきこえんとなん申侍しをいかなるへきことにかは侍らむ程　くにつけて人のきは

　くおほしわきまへつゝありかたき御心さまに物し給なれとたゝ人たに又かゝつらひおもふ人たちならひたることは人のあかぬことにしはへめるをめさましき事もや侍らむ御うしろみのそみ給人ゝはあまたものし給めりよくおほしさためてこそよく侍らめかきりなき人ときこゆれといまの世のやうとてはみなほか

らかにあるへかしくて世の中を御心とすくし給つへきもおはしますへかめるを
ひめ宮はあさましくおほつかなく心もとなくのみゝえさせ給にさふらふ人ゝは
つかうまつるかきりこそ侍らめおほかたの御心をきてにしたかひきこえてさか
しきしも人もなひきさふらふこそたよりあることに侍らめとりたてたる御うし
ろみものし給はさらむは猶心ほそきわさになん侍へきときこゆしかおもひたと
るによりなんみこたちのよつきたるありさまはうたてあは　くしきやうにもあ
り又たかききはといへとも女はおとこにみゆるにつけてこそくやしけなる事も
めさましきおもひもをのつからうちましるわさなめれとかつは心くるしく思ひ
みたるゝを又さるへき人にたちをくれてたのむかけともにわかれぬる後心をた
てゝ世中にすくさむ事もむかしは人の心たひらかにて世にゆるさるましき程の
事をは思をよはぬものとならひたりけんいまの世にはすき　くしくみたりかは
しきこともるいにふれてきこゆめりかし昨日まてたかきおやのいへにあかめら
れかしつかれし人のむすめのけふはなを　くしくくたれるきはのすき物ともに
なをたちあさむかれてなきおやのおもてをふせかけをはつかしむるたくひおほ
くきこゆるいひもてゆけはみなおなしことなり程　くにつけてすくせなといふ
なることはしりかたきわさなれはよろつにうしろめたくなんすへてあしくもよ
くもさるへき人の心にゆるしをきたるまゝにて世中をすくすはすくせ　くにて
後の世におとろへあるときも身つからのあやまちにはならすありへてこよなき
さいはひありめやすきことになるおりはかくてもあしからさりけりとみゆれと
猶たちまちにふとうちきゝつけたる程はおやにしられすさるへき人もゆるさぬ
に心つからのしのひわさしいてたるなん女の身にはますことなきゝすとおほゆ
るわさなるなを　くしきたゝ人のなからひにてたにあはつけく心つきなき事な
り身つからの心よりはなれてあるへきにもあらぬを思ふ心よりほかに人にもみ
えすくせのほとさためられんなむいとかる　くしく身のもてなしありさま　く
おしはからるゝ事なるをあやしく物はかなき心さまにやとみゆめる御さまなる
をこれかれの心にまかせてもてなしきこゆなるさやうなることの世にもりいて
んことといとうき事なりなとみすてたてまつり給はん後の世をうしろめたけに思
きこえさせ給へれはいよ　くわつらはしく思あへりいますこし物をも思ひしり
給ほとまてみすくさんとこそはとしころねんしつるをふかきほいもとけすなり
ぬへき心ちのするに思もよをされてなんかの六条のおとゝはけにさりとももの
ゝ心えてうしろやすきかたはこよなかりなんをかた　くにあまたものせらるへ
き人ゝをしるへきにもあらすかしとてもかくても人の心から也のとかにおちゐ

ておほかたの世のためしともうしろやすきかたはならひなくものせらるゝ人なりさらてよろしかるへき人たれはかりかはあらむ兵部卿宮人からはめやすしかしおなしきすちにてことひとゝわきまへおとしむへきにはあらねとあまりいたくなよひよしめく程にをもきかたをくれてすこしかろひたるおほえやすゝみにたらむ猶さる人はいとたのもしけなくなんある又大納言の朝臣のいへつかさのそむなるさるかたにものまめやかなるへき事にはあなれとさすかにいかにそやさやうにおしなへたるきはゝ猶めさましくなんあるへきむかしもかうやうなるえらひにはなに事も人にことなるおほえあるにことよりてこそありけれたゝひとへに又なくもちゐんかたはかりをかしこきことに思さためんはいとあかすくちおしかるへきわさになん右衛門督のしたにわふなるよし内侍督の物せられしその人はかりなんくらゐなといますこし物めかしき程になりなはなとかはとも思よりぬへきをまたとしいとわかくてむけにかろひたるほと也たかき心さしふかくてやもめにてすくしつゝいたくしつまり思あかれるけしき人にはぬけてさえなともことともなくつゐには世のかためとなるへき人なれは行すゑもたのもしけれと猶又このためにと思はてむにはかきりそあるやとよろつにおほしわつらひたりかうやうにもおほしよらぬあね宮たちをはかけてもきこえなやまし給人もなしあやしくうち　くにのたまはする御さゝめき事とものをのつからひろこりて心をつくす人ゝおほかりけりおほきおとゝもこの衛門督のいまゝてひとりのみありてみこたちならすはえしとおもへるをかゝる御さためともいてきたなるをりにさやうにもおもむけたてまつりてめしよせられたらむ時いかはかり我ためにもめんほくありてうれしからむとおほしの給て内侍のかんの君にはかのあね北方してつたへ申給なりけりよろつかきりなきことの葉をつくしてそうせさせ御けしきたまはらせ給兵部卿宮は左大将の北の方をきこえはつし給てきゝ給らん所もありかたほならむことはとえりすくし給にいかゝは御心うこかさらむかきりなくおほしいられたり藤大納言はとしころ院の別富にてしたしくつかうまつりてさふらひなれにたるを御山こもりし給なんのちより所なく心ほそかるへきにこの宮の御うしろみに事よせてかへりみさせ給へく御けしきせちに給はりたまふなるへし権中納言もかゝる事ともをきゝ給ふに人つてにもあらすさはかりおもむけさせたまへりし御けしきをみたてまつりてしかはをのつからたよりにつけてもらしきこしめさるゝ事もあらはよもゝてはなれてはあらしかしと心ときめきもしつへけれと女君のいまはとうちとけてたのみ給へるをとしころつらきにもことつけつへかりし程たにほかさまの心もなくてすくしてしをあ

やにくにいまさらにたちかへりにわかに物をや思はせきこえんなのめならすやむことなきかたにかゝつらひなはなに事も思まゝならてひたりみきにやすからすは我身もくるしくこそはあらめなともとよりすき　くしからぬ心なれは思しつめつゝうちいてねとさすかにほかさまにさたまりはて給はんもいかにそやおほえてみゝはとまりけり春宮にもかゝる事ともきこしめしてさしあたりたるたゝいまのことよりも後の世のためしともなるへき事なり人からよろしとてもたゝ人はかきりあるを猶しかおほしたつことならはかの六条院にこそおやさまにゆつりきこえさせ給はめとなんわさとの御せうそことはあらねと御けしきありけるをまちきかせ給てもけにさること也いとよくおほしのたまはせたりといよ

くの御心たゝせ給てまつかの弁してそかつ　くあないつたへきこえさせ給けるこの宮の御事かくおほしわつらふさまはさき　くもみなきゝをき給へれは心くるしきことにもあなるかなさはありとも院の御世のゝこりすくなしとてこゝには又いくはくたちをくれたてまつるへしとてかその御うしろみの事をはうけとりきこえんけにしたいをあやまたぬにていましはしの程ものこりとまるかきりあらはおほかたにつけてはいつれの御子たちをもよそにきゝはなちたてまつるへきにもあらねと又かくとりわきてきゝをきたてまつりてんをはことにこそはうしろみきこえめとおもふをそれたにいとふちやうなる世のさためなさなりやとの給てましてひとにたのまれたてまつるへきすちにむつひなれきこえんことはいと中　くにうちつゝき世をさらむきさみ心くるしくみつからのためにもあさからぬほたしになんあるへき中納言なとは年わかくかろ　くしきやうなれと行さきとをくて人からもつゐにおほやけの御うしろみともなりぬへきおいさきなんめれはさもおほしよらむになとかこよなからむされといたくまめたちて思ふ人さたまりにてそあめれはそれにはゝからせたまふにやあらむなとの給て身つからはおほしはなれたるさまなるを弁はおほろけの御さためにもあらぬをかくの給へはいとおしくくちおしくも思てうち　くにおほしたちにたるさまなとくはしくきこゆれはさすかにうちえみつゝいとかなしくしたてまつり給みこなめれはあなかちにかくきしかた行さきのたとりもふかきなめりかしなたゝうちにこそたてまつり給はめやんことなきまつの人ゝおはすといふことはよしなき事なりそれにさはるへき事にもあらすかならすさりとてするの人をろかなるやうもなしこ院の御時におほきさきのはうのはしめの女御にていきまき給しかとむけのするにまいり給へりし入道の宮にしはしはおされ給にきかしこのみこの御はゝ女御こそはかの宮の御はらからにものしたまひけめかたちもさしつ

きにはいとよしといはれ給し人なりしかはいつかたにつけてもこのひめ宮をしなへてのきはにはよもおはせしをなといふかしくは思きこえ給へしとしもくれぬ朱雀院には御こゝち猶をこたるさまにもおはしまさねはよろつあはたゝしくおほしたちて御もきの事おほしいそくさまきしかた行さきありかたけなるまていつくしくのゝしる御しつらひはかへ殿のにしおもてに御きちやうよりはしめてこゝのあやにしきをませさせ給はすもろこしのきさきのかさりをおほしやりてうるはしくこと　くしくかゝやくはかりとゝのへさせ給へり御こしゆひにはおほきおとゝをかねてよりきこえさせ給へりけれはこと　くしくおはする人にてまいりにくゝおほしけれと院の御事をむかしよりそむき申給はねはまいり給いまふた所の大臣たちそののこり上達部なとはわりなきさはりあるもあなかちにためらひたすけつゝまいり給みこたち八人殿上人はたさらにもいはす内春宮ののこらすまいりつとひていかめしき御いそきのひゝき也院の御こととこのたひこそとちめなれとみかと春宮をはしめたてまつりて心くるしくきこしめしつゝ蔵人所おさめとのゝから物ともおほくたてまつらせ給へり六条院よりも人〻のろくそん者の大臣の御ひきいて物なとかの院よりそたてまつらせ給ける中宮よりも御さうそくくしのはこ心ことにてうせさせ給てかのむかしのみくしあけのくゆへあるさまにあらためくはへてさすかにもとの心はえもうしなはすそれとみせてその日の夕つかたたてまつれさせ給宮の権の佐院の殿上にもさふらふを御使にてひめ宮の御方にまいらすへくのたまはせつれとかゝることそ中にありける

　さしなからむかしをいまにつたふれはたまのをくしそ神さひにける院御らむしつけてあはれにおほしいてらるゝ事もありけりあえ物けしうもあらしとゆつりきこえ給へるほとけにおもたゝしきかむさしなれは御返もむかしのあはれをはさしをきて

　さしつきにみる物にもかよろつ世をつけのをくしの神さふるまてとそいはひきこえ給へる御心ちいとくるしきをねんしつゝおほしおこしてこの御いそきはてぬれは三日すくしてつゐに御くしおろし給よろしき程の人のうへにてたにいまはとてさまかはるはかなしけなるわさなれはましていとあはれけに御かた　くもおほしまとふ内侍のかんの君はつとさふらひ給ていみしくおほしいりたるをこしらへかね給て子を思ふ道はかきりありけりかく思しつみ給へる別のたへかたくもあるかなとて御心みたれぬへけれとあなかちに御けうそくにかゝり給て山の座主よりはしめて御いむことのあさり三人さふらひてほうふくなとた

てまつる程この世をわかれ給御さほういみしくかなしけふは世を思すましたる
僧たちなとたに涙もえとゝめねはまして女宮たち女御更衣こゝらの男女かみし
もゆすりみちてなきとよむにいと心あはたゝしうかゝらてしつやかなる所にや
かてこもるへくおほしまうけゝるほいたかひておほしめさるゝもたゝこのをさ
なき宮にひかされてとおほしのたまはす内よりはしめたてまつりて御とふらひ
のしけさいとさらなり六条院もすこし御心ちよろしくときゝたてまつらせ給て
まいり給御たうはりの御ふなとこそみなおなしことおりゐのみかとゝひとしく
さたまり給へれとまことの太上天皇の儀式にはうけはり給はす世のもてなし思
きこえたるさまなとは心ことなれとことさらにそき給てれいのこと　くしから
ぬ御車にたてまつりて上達部なとさるへきかきり車にてそつかうまつり給へる
院にはいみしくまちよろこひきこえさせ給てくるしき御心ちをおほしつよりて
御たいめんありうるはしきさまならすたゝおはしますかたにおましよそひくは
へていれたてまつり給へる御ありさまみたてまつり給ふにきしかた行さきくれ
てかなしくとめかたくおほさるれはとみにもえためらひ給はす故院にをくれた
てまつりしころほひより世のつねなくおもふ給へられしかはこのかたのほいふ
かくすゝみ侍にしを心よはくおもふたまへたゆたふことのみ侍つゝつゐにかく
みたてまつりなし侍まてをくれたてまつり侍ぬる心のぬるさをはつかしく思た
まへらるゝかな身にとりてはことにもあるましくおもふ給へたち侍おり　くあ
るをさらにいとしのひかたきことおほかりぬへきわさにこそ侍けれとなくさめ
かたくおほしたり院も物心ほそくおほさるゝにえ心つよからすうちしほたれ給
ひつゝいにしへいまの御物かたりいとよはけにきこえさせ給てけふかあすかと
おほえ侍つゝさすかに程へぬるをうちたゆみてふかきほいのはしにてもとけす
なりなん事と思おこしてなんかくてものこりのよはひなくはをこなひの心さし
もかなふましけれとまつかりにてものとめをきて念仏をたにと思ひ侍るはか
　くしからぬ身にても世になからふることたゝこの心さしにひきとゝめられた
るとおもふ給へしられぬにしもあらぬをいままてつとめなきをこたりをたにや
すからすなんとておほしをきてたるさまなとくはしくの給はするつゐてに女み
こたちをあまたうちすて侍なん心くるしき中にも又思ゆつる人なきをはとりわ
きうしろめたくみわつらひ侍とてまほにはあらぬ御けしき心くるしくみたてま
つり給御心のうちにもさすかにゆかしき御ありさまなれはおほしすくしかたく
てけにたゝ人よりもかゝるすちにはわたくしさまの御うしろみなきはくちおし
けなるわさになん侍ける春宮かくておはしませはいとかしこきすゐの世のまう

けの君とあめのしたのたのみ所にあふきゝこえさするをましてこの事ときこえをかせ給はんことはひとことゝしておろそかにかろめ申給へきに侍らねはさらに行さきのことおほしなやむへきにも侍らねとけに事かきりあれはおほやけとなり給よのまつりこと御心にかなふへしとはいひなから女の御ためになにはかりのけさやかなる御心よせあるへきにも侍らさりけりすへて女の御ためにはさま〳〵まことの御うしろみとすへき物は猶さるへきすちに契をかはしえさらぬことにはくゝみきこゆる御まもりめ侍なんうしろやすかるへき事にはつるを猶しひて後の世の御うたかひのこるへくはよろしきにおほしえらひてしのひてさるへき御あつかりをさためをかせ給へきになむはへなるとそうし給さやうに思よる事侍れとそれもかたき事になんありけるいにしへのためしをきゝ侍にも世をたもつさかりのみこにたに人をえらひてさるさまの事をし給へるたくひおほかりけりましてかくいまはとこの世をはなるゝきはにてこと〳〵しく思へきにもあらねと又しかすつる中にもすてかたき事ありてさま〳〵に思わつらひ侍ほとにやまひはをもりゆく又とりかへすへきにもあらぬ月日のすきゆけは心あはたゝしくなむかたはらいたきゆつりなれとこのいはけなき内親王ひとりとりわきてはくゝみおほしてさるへきよすかをも御心におほしさためてあつけ給へときこえまほしきを権中納言なとのひとりものしつる程すゝみよるへくこそありけれおほいまうち君にせんせられてねたくおほえ侍ときこえ給中納言の朝臣のまめやかなるかたはいとよくつかうまつりぬへく侍をなに事もまたあさくてたよりすくなくこそ侍らめかたしけなくともふかき心にてうしろみきこえさせ侍らむにおはします御かけにかはりてはおほされしをたゝ行さきみしかくてつかうまつりさすことや侍らむとうたかはしきかたのみなん心くるしくはへるへきとうけひき申給つ夜にいりぬれはあるしの院かたもまらうとの上達部たちもみな御前にてあるしのことさうし物にてうるはしからすなまめかしくせさせ給へり院の御前にせんかうのかけはんに御はちなとむかしにかはりてまいるを人〳〵涙おしのこひ給あはれなるすちの事ともあれとうるさけれはかゝす夜ふけてかへり給ふろくともつき〳〵にたまふ別富大納言も御をくりにまいり給あるしの院はけふの雪にいとゝ御風くはゝりてかきみたりなやましくおほさるれとこの宮の御こときこえさためつるを心やすくおほしけり六条院はなま心くるしうさま〳〵おほしみたるむらさきのうへもかゝる御さためなとかねてもほのきゝ給けれとさしもあらし前斎院をもねんころにきこえ給やうなりしかとわさとしもおほしとけすなりにしをなとおほしてさることやあるともとひきこえ給はすな

に心もなくておはするにいとおしくこの事をいかにおほさん我心は露もかはるましくさることあらむにつけては中　くいとゝふかさこそまさらめみさため給はさらむほといかに思うたかひ給はんなとやすからすおほさるいまのとしころとなりてはましてかたみにへたてきこえ給ことなくあはれなる御なかなれはしはし心にへたてのこしたる事あらむもいふせきをその夜はうちやすみてあかし給つ又の日雪うちふり空のけしきも物あはれにすきにしかた行さきの御物かたりきこえかはし給院のたのもしけなくなり給にたる御とふらひにまいりてあはれなる事とものありつるかな女三宮の御事をいとすてかたけにおほしてしか

くなむのたまはせつけしかは心くるしくてえきこえいなひすなりにしをこと

くしくそ人はいひなさんかしいまはさやうのこともうゐ　くしくすさましく思ひなりにたれは人つてにけしきはませ給しにはとかくのかれきこえしをたいめんのついてに心ふかきさまなる事ともをの給つゝけしにはえすく　くしくもかへさひ申さてなんふかき御山すみにうつろひ給はん程にこそはわたしたてまつらめあちきなくやおほさるへきいみしきことありとも御ためあるよりかはる事はさらにあるましきを心なをき給そよかの御ためこそ心くるしからめそれもかたはならすもてなしてむたれも　くのとかにてすくし給はゝなときこえ給はかなき御すさひことをたにめさましき物におほして心やすからぬ御心さまなれはいかゝおほさんとおほすにいとつれなくてあはれなる御ゆつりにこそはあなれこゝにはいかなる心をゝきたてまつるへきにかめさましくかくてなととかめらるましくは心やすくてもはへなんをかのはゝ女御の御方さまにてもうとからすおほしかすまへてむやとひけし給をあまりかうゝちとけ給御ゆるしもいかなれはとうしろめたくこそあれまことはさたにおほしゆるいてわれも人も心えてなたらかにもてなしすくし給はゝいよ　くあはれになむひかこときこえなとせん人の事きゝいれ給なすへて世の人のくちといふ物なんたかいひいつる事ともなくをのつから人のなからひなとうちほをゆかみおもはすなる事いてくる物なるを心ひとつにしつめてありさまにしたかふなんよきまたきにさはきてあいなきものうらみし給なといとよくをしへきこえ給心のうちにもかくそらよりいてきにたるやうなる事にてのかれ給かたきをにくけにもきこえなさし我心にはゝかり給ひいさむることにしたかひ給へきをのかとちの心よりおこれるけさうにもあらすせかるへきかたなきものからおこかましく思むすほゝるゝさま世人にもりきこえし式部卿宮のおほきたの方つねにうけはしけなる事ともをの給いてつゝあちきなき大将の御ことにてさへあやしくうらみそねみ給ふなるをかやう

にきゝていかにいちしるく思あはせ給はんなとおひらかなる人の御心といへといかてかはかはかりのくまはなからむいまはさりともとのみ我身を思ひあかりうらなくてすくしける世の人わらへならん事をしたには思つゝけ給へといとおひらかにのみもてなし給へりとしもかへりぬ朱雀院にはひめ宮六条院にうつろひ給はん御いそきをし給きこえ給へる人〳〵いとくちおしくおほしなけく内にも御心はえありてきこえ給ける程にかゝる御さためをきこしめしておほしとまりにけりさるはことしそよそちになり給けれは御賀の事おほやけにもきこしめしすくさす世中のいとなみにてかねてよりひゝくをことのわつらひおほくいかめしき事はむかしよりこのみ給はぬ御心にてみなかへさひ申給正月廿三日ねのひなるに左大将殿の北方わかなまいり給かねてけしきもゝらし給はていといたくしのひておほしまうけたりけれはにはかにてえいさめかへしきこえ給はすしのひたれとさはかりの御いきをひなれはわたり給御きしきなといとひゝきことなりみなみのおとゝのにしのはなちいてにおましよそふ屏風かへしろよりはしめあたらしくはらひしつらはれたりうるはしくいしなとはたてす御ちしき四十まい御しとねけうそくなとすへてその御くともいときよらにせさせ給へりらてんのみつしふたよろひに御ころもはこよつすへて夏冬の御さうそくかうこくすりのはこ御すゝりゆするつきかゝけのはこなとやうの物うち　くきよらをつくし給へり御かさしのたいにはちんしたむをつくりめつらしきあやめをつくしおなしきかねをも色つかひなしたる心はえありいまめかしくかんの君ものゝみやひふかくかとめき給へる人にてめなれぬさまにしなし給へるおほかたの事をはことさらにこと　くしからぬ程なり人〳〵まいりなとし給ておましにいて給とてかんの君に御たいめんあり御心のうちにはいにしへおほしいつる事ともさま　くなりけんかしいとわかくきよらにてかく御賀なといふことはひかかそへにやとおほゆるさまのなまめかしく人のおやけなくおはしますをめつらしくてとし月へたてゝみたてまつり給はいとはつかしけれと猶けさやかなるへたてもなくて御物かたりきこえかはし給をさなき君もいとうつくしくてものし給かむの君はうちつゝきても御覧せられし事との給けるを大将のかゝるついてにたに御らむせさせんとてふたりおなしやうにふりわけかみのなに心なきなをしすかたともにておはすすくるよはひも身つからの心にはことに思とかめられすたゝむかしなからのわか　くしきありさまにてあらたむることもなきをかゝるするゑ　くのもよをしになんなまはしたなきまて思しらるゝおりも侍ける中納言のいつしかとまうけたなるをこと　くしく思ひへたてゝまたみせすかし人よりことにかそ

へとり給けるけふのねのひこそ猶うれたけれしはしは老をわすれても侍へきをときこえ給かんの君もいとよくねひまさりもの　くしきけさへそひてみるかひあるさまし給り

わか葉さす野へのこ松をひきつれてもとのいはねをいのるけふかなとせめてをとなひきこえ給ちんのおしきよつして御わかなさまはかりまいれり御かはらけとり給て

小松はらすゑのよはひにひかれてやのへのわかなも年をつむへきなときこえかはし給て上達部あまたみなみのひさしにつき給式部卿宮はまいりにくゝおほしけれと御せうそこありけるにかくしたしき御なからひにて心あるやうならむもひんなくて日たけてそわたり給へる大将のしたりかほにてかゝる御なからひにうけはりてものし給もけに心やましけなるわさなめれと御むまこの君たちはいつかたにつけてもおりたちてさうやくし給こものよそえたおりひつ物よそち中納言をはしめたてまつりてさるへきかきりとりつゝき給へり御かはらけくたりわかなの御あつい物まいるおまへにはちんのかけはん四おほむつきともなつかしくいまめきたる程にせられたり朱雀院の御くすりの事猶たひらきはて給はぬにより楽人なとはめさす御ふえなとおほきおとゝのそのかたはとゝのへ給て世中にこの御賀より又めつらしくきよらつくすへき事あらしとの給てすくれたるねのかきりをかねてよりおほしまうけたりけれはしのひやかに御あそひありとり　くにたてまつる中に和琴はかのおとゝの第一にひし給ける御こと也さる物の上手の心をとゝめてひきならし給へるねいとならひなきをこと人はかきたてにくゝしたまへは衛門督のかたくいなふるをせめ給へはけにいとおもしろくおさ　くをとるましくひくなに事も上手のつきといひなからかくしもえつかぬわさそかしと心にくゝあはれに人ゝおほすしらへにしたかひてあとあるてともさたまれるもろこしのつたへともは中　くたつねしるへきかたあらはなるを心にまかせてたゝかきあはせたるすかかきによろつの物のねとゝのへられたるはたへにおもしろくあやしきまてひゝくちゝおとゝはことのをもいとゆるにはりていたうくたしてしらへひゝきおほくあはせてそかきならし給これはいとわらゝかにのほるねのなつかしくあい行つきたるをいとかうしもはきこえさりしをとみこたちもおとろき給琴は兵部卿宮ひき給ふこの御ことは宜陽殿の御ものにてたい　くに第一の名ありし御ことをこ院のするゑつかた一品宮のこのみ給こととにてたまはり給へりけるをこのおりのきよらをつくし給はんとするためおとゝの申給はり給へる御つたへ　くをおほすにいとあはれにむかしの事も恋しく

おほしいてらるみこもえいなきえとゝめ給はす御けしきとり給て琴はおまへにゆつりきこえさせ給ふ物のあはれにえすくし給はてめつらしき物ひとつはかりひき給にこと　くしからねとかきりなくおもしろき夜の御あそひなりさうかの人〻みはしにめしてすくれたるこゑのかきりいたしてかへり声になる夜のふけ行まゝに物のしらへともなつかしくかはりてあをやきあそひ給ほとけにねくらのうくひすおとろきぬへくいみしくおもしろしわたくしことのさまにしなし給てろくなといときやうさくにまうけられたりけりあか月にかんの君かへり給御をくり物なとありけりかうよをすつるやうにてあかしくらす程にとし月のゆくゑもしらすかほなるをかうかそへしらせ給へるにつけては心ほそくなん時　くはおひやまさるとみたまひくらへよかしかくふるめかしき身の所せさにおもふにしたかひてたいめんなきもいとくちおしくなんなときこえ給てあはれにもおかしくも思いてきこえ給ことなきにしもあらねは中　くほのかにてかくいそきわたり給をいとあかすくちおしくそおほされけるかむの君もまことのおやをはさるへき契はかりに思きこえ給てありかたくこまかなりし御心はえをとし月にそへてかく世にすみはて給につけてもをろかならす思ひきこえ給けりかくてきさらきの十よ日に朱雀院のひめ宮六条院へわたり給この院にも御心まうけよのつねならすわかなまいりしにしのはなちいてに御丁たてゝそなたの一二のたいわた殿かけて女房のつほね　くまてこまかにしつらひみかゝせ給へりうちにまいり給人のさほうをまねひてかの院よりも御てうとなとはこはるわたり給きしきいへはさらなり御をくりにかむたちめなとあまたまいり給かのけいしのそみ給し大納言もやすからす思なからさふらひ給御車よせたる所に院わたり給ておろしたてまつり給なともれいにはたかひたる事とも也たゝ人におはすれはよろつの事かきりありて内まいりにもにすむこのおほ君といはんにもことたかひてめつらしき御なかのあはひともになん三日かほとかの院よりもあるしの院かたよりもいかめしくめつらしきみやひをつくし給たいのうへもことにふれてたゝにもおほされぬ世のありさまなりけにかゝるにつけてこよなく人にをとりけたるゝ事もあるましけれと又ならふ人なくならひ給てはなやかにおひさきとをくあなつりにくきけはひにてうつろひ給へるになまはしたなくおほさるれとつれなくのみもてなして御わたりの程ももろ心にはかなきこともしいて給ていとらうたけなる御ありさまをいとゝありかたしと思きこえ給ひめ宮はけにまたいとちいさくかたなりにおはするうちにもいといはけなきけしきしてひたみちにわかひ給へりかのむらさきのゆかりたつねとり給へりしおりおほしいつるにかれ

はされていふかひありしをこれはいといはけなくのみみえ給へはよかめりにくけにをしたちたることなとはあるましかめりとおほす物からいとあまり物のはへなき御さまかなとみたてまつり給三日か程はよかれなくわたり給をとしころさもならひ給はぬ心ちにしのふれと猶ものあはれなり御そともなといよ　くたきしめさせ給ものからうちなかめてものし給けしきいみしくらうたけにおかしなとてよろつの事ありとも又人をはならへてみるへきそあた　くしく心よはくなりをきにける我をこたりにかゝる事もいてくるそかしわかけれと中納言をはえおほしかけすなりぬめりしをとわれなからつらくおほしつゝくるに涙くまれてこよひはかりはことはりとゆるし給てんなこれよりのちのとたえあらむこそ身なからも心つきなかるへけれまたさりとてかの院にきこしめさんことよと思ひみたれ給へる御心のうちくるしけなりすこしほゝえみて身つからの御心なからたにえさため給ましかなるをましてことはりもなにもいつこにとまるへきにかといふかひなけにとりなし給へはゝつかしうさへおほえ給てつらつえをつき給てよりふし給へれは女君すゝりをひきよせて

　めにちかくうつれはかはる世の中を行すゑとをくたのみけるかなふることなとかきませ給をとりてみ給てはかなきことなれとけにとことはりにて

　命こそたゆともたえめさためなきよのつねならぬ中の契をとみにもえわたり給はぬをいとかたはらいたきわさかなとそゝのかしきこえたまへはなよゝかにおかしきほとにえならすにほひてわたり給をみいたし給もいとたゝにはあらすかしとしころさもやあらむと思しことゝももいまはとのみもてはなれ給つゝさらはかくこそはとうちとけ行すゑにあり　くてかく世のきゝみゝもなのめならぬ事のいてきぬるよ思さたむへき世のありさまにもあらさりけれはいまよりのちもうしろめたくそおほしなりぬるさこそつれなくまきらはし給へとさふらふ人〳〵もおもはすなる世なりやあまたものし給やうなれといつかたもみなこなたの御けはひにはかたさりはゝかるさまにてすくし給へはこそ事なくなたらかにもあれおしたちてかはかりなるありさまにけたれてもえすくし給まし又さりとてはかなきことにつけてもやすからぬ事のあらむおり　くかならすわつらはしきこととともいてきなむかしなとをのかしゝうちかたらひなけかしけなるをつゆもみしらぬやうにいとけはひおかしく物かたりなとし給つゝ夜ふくるまておはすかう人のたゝならすいひ思たるもきゝにくしとおほしてかくこれかれあまたものし給めれと御心にかなひていまめかしくすくれたるきはにもあらすとめなれてさう　くしくおほしたりつるにこの宮のかくわたり給へるこそめやすけ

れ猶わらは心のうせぬにやあらむ我もむつひてきこえてあらまほしきをあいなくへたてあるさまに人ゝやとりなさむとすらんひとしき程をとりさまなと思ふ人にこそたゝならすみゝたつこともをのつからいてくるわさなれかたしけなく心くるしき御ことなめれはいかて心をかれたてまつらしとなむ思なとの給へはなかつかさ中将の君なとやうの人ゝめをくはせつゝあまりなる御思やりかなとといふへしむかしはたゝならぬさまにつかひならし給し人ともなれとゝしころはこの御方にさふらひてみな心よせきこえたるなめりこと御かた　くよりもいかにおほすらむもとより思はなれたる人ゝは中　く心やすきをなとおもむけつゝとふらひきこえ給もあるをかくおしはかる人こそなか　くくるしけれ世中もいとつねなきものをなとてかさのみは思なやまむなとおほすあまりひさしきよひゐもれいならす人やとかめんと心のおにゝおほして入給ぬれは御ふすまいりぬれとけにかたはらさひしきよな　くへにけるも猶たゝならぬ心地すれとかのすまの御わかれのおりなとをおほしいつれはいまはとかけはなれ給てもたゝおなし世のうちにきゝたてまつらましかはと我身までのことはうちをきあたらしくかなしかりしありさまそかしさてそのまきれに我も人もいのちたえすなりなましかはいふかひあらまし世かはとおほしなをす風うち吹たる夜のけはひひやゝかにてふともねいられ給はぬをちかくさふらふ人ゝあやしとやきかむとうちもみしろき給はぬも猶いとくるしけなりよふかきとりのこゑのきこえたるもものあはれなりわさとつらしとにはあらねとかやうに思みたれ給ふけにやかの御ゆめにみえ給けれはうちおとろき給ていかにと心さはかし給にとりのねまちいて給へれは夜ふかきもしらすかほにいそきいて給いといはけなき御ありさまなれはめのとたちゝかくさふらひけりつまとおしあけていて給をみたてまつりをくるあけくれの空に雪のひかりみえておほつかなしなこりまてとまれる御にほひやみはあやなしとひとりこたる雪はところ　くきえのこりたるかいとしろき庭のふとけちめみえわかれぬほとなるになをのこれる雪としのひやかにくちすさみ給つゝみかうしうちたゝき給もひさしくかゝることなかりつるならひに人ゝもそらねをしつゝやゝまたせたてまつりてひきあけたりこよなくひさしかりつるに身もひえにけるはをちきこゆる心のをろかならぬにこそあめれさるはつみもなしやとて御そひきやりなとし給にすこしぬれたる御ひとへの袖をひきかくしてうらもなくなつかしき物からうちとけてはたあらぬ御よういなといとはつかしけにおかしかきりなき人ときこゆれとかたかめるよをとおほしくらへらるよろついにしへのことをおほしいてつゝとけかたき御けしきをうらみきこ

え給てその日はくらし給へれはえわたりたまはてしんてんには御せうそこをきこえ給けさの雪に心ちあやまりていとなやましく侍れは心やすき方にためらひ侍とあり御めのとさきこえさせ侍ぬとはかりことはにきこえたりことなる事なの御返やとおほす院にきこしめさんこともいとをしこのころはかりつくろはんとおほせとえさもあらぬをさは思し事そかしあなくるしと身つからおもひつゝけ給女君も思やりなき御心かなとくるしかり給けさはれいのやうにおほとのこもりおきさせ給て宮の御かたに御ふみたてまつれ給ことにはつかしけもなき御さまなれと御ふてなとひきつくろひてしろきかみに

なかみちをへたつるほとはなけれとも心みたるゝけさのあは雪むめにつけ給へり人めしてにしのわた殿よりたてまつらせよとの給やかてみいたしてはしちかくおはしますしろき御そともをき給て花をまさくり給つゝともまつ雪のほのかにのこれるうへにうちちりそふそらをなかめ給へりうくひすのわかやかにちかきこうはいのするゑにうちなきたるを袖こそにほへと花をひきかくしてみすおしあけてなかめ給へるさまゆめにもかゝる人のおやにてをもきくらゐとみえ給はすわかうなまめかしき御さまなり御かへりすこし程ふる心ちすれはいり給て女君に花みせたてまつり給はなといはゝかくこそにほはまほしけれなさくらにうつしては又ちりはかりも心わくるかたなくやあらましなとの給これもあまたうつろはぬほとめとまるにやあらむはなのさかりにならへてみはやなとの給に御返ありくれなゐのうすやうにあさやかにをしつゝまれたるをむねつふれて御てのいとわかきをしはしみせたてまつらてあらはやへたつとはなけれとあはくしきやうならんは人のほとかたしけなしとおほすにひきかくし給はんも心をき給へけれはかたそはひろけ給へるをしりめにみをこせてそひふし給へり

はかなくてうはのそらにそきえぬへき風にたゝよふ春のあは雪御てけにいとわかくをさなけなりさはかりの程になりぬる人はいとかくはをはせぬ物をとめとまれとみぬやうにまきらはしてやみ給ぬこと人のうへならはさこそあれなとはしのひてきこえ給へけれといとおしくてたゝ心やすくを思なし給へとのみきこえ給けふは宮の御方にひるわたり給心ことにうちけさうし給へる御ありさま今みたてまつる女房なとはましてみるかひありと思きこゆらむかしおほんめのとなとやうのおいしらへる人ゝそいてやこの御ありさまひと所こそめてたけれめさましきことはありなむかしとうちませて思ふもありける女宮はいとらうたけにおさなきさまにて御しつらひなとのこと　くしくよたけくうるはしきに身つからはなに心もなくものはかなき御程にていと御そかちに身もなくあえか

なりことにはちなともし給はすたゝちこのおもきらひせぬ心ちして心やすくうつくしきさまし給へり院のみかとはをゝしくすくよかなるかたの御さえなとこそ心もとなくおはしますと世人思ためれをかしきすちになまめきゆへゆへしきかたは人にまさり給へるをなとてかくおひらかにおほしたて給ひけんさるはいと御心とゝめ給へるみこときゝしをと思もなまくちおしけれとにくからすみたてまつり給たゝきこえ給ふまゝになよ　くとなひき給て御いらへなとをもおほえ給けることはいはけなくうちの給いてゝえみはなたすみえ給むかしの心ならましかはうたて心をとりせましをいまは世中をみなさま　くに思なたらめてとあるもかゝるもきははなるゝことはかたき物なりけりとり　くにこそおほうはありけれよその思ひはいとあらまほしき程なりかしとおほすにさしならひめかれすみたてまつり給へるとしころよりもたいのうへの御ありさまそなをありかたくわれなからもおほしたてけりとおほす一夜のほとあしたのまもこひしくおほつかなくいとゝしき御心さしのまさるをなとかくおほゆらんとゆゝしきまてなむ院のみかとは月のうちにみてらにうつろひ給ぬこのゐんにあはれなる御せうそこともきこえ給ひめ宮の御ことはさらなりわつらはしくいかにきく所やなとはゝかり給ことなくてともかくもたゝ御心にかけてもてなし給へくそたひ

　くきこえ給けるされとあはれにうしろめたくをさなくおはするを思きこえ給けりむらさきのうへにも御せうそこゝとにありをさなき人の心ちなきさまにてうつろひものすらむをつみなくおほしゆるしてうしろみたまへたつね給へきゆへもやあらむとそ

　そむきにしこの世にのこるこゝろこそいる山みちのほたしなりけれやみをえはるけてきこゆるもおこかましくやとありおとゝもみ給てあはれなる御せうそこをかしこまりきこえ給へとて御使にも女房してかはらけさしいてさせ給てしゐさせ給御かへりはいかゝなときこえにくゝおほしたれとこと　くしくおもしろかるへきおりのことならねはたゝこゝろをのへて

　そむくよのうしろめたくはさりかたきほたしをしゐてかけなはなれそなとやうにそあめりし女のさうそくにほそなかそへてかつけ給御てなとのいとめてたきを院御覧してなに事もいとはつかしけなめるあたりにいはけなくてみえ給らむ事いと心くるしうおほしたりいまはとて女御更衣たちなとをのかしゝわかれ給ふもあはれなることなむおほかりける内侍のかむの君はこきさいの宮のおはしましし二条の宮にそすみ給ひめみやの御ことををきてはこの御ことをなむかへりみかちにみかともおほしたりけるあまになりなんとおほしたれとかゝる

きほひにはしたふやうに心あはたたしといさめ給てやう　く仏の御ことなといそかせ給六条のおとゝはあはれにあかすのみおほしてやみにし御あたりなれはとしころもわすれかたくいかならむおりにたいめあらむいま一たひあひみてそのよのこともきこえまほしくのみおほしわたるをかたみに世のきゝみゝもはゝかり給へき身のほとにいとおしけなりしよのさはきなともおほしいてらるれはよろつにつゝみすくし給けるをかうのとやかになり給て世中をおもひしつまり給らむころほひの御ありさまいよいよゆかしく心もとなけれはあるましき事とはおほしなからおほかたの御とふらひにことつけてあはれなるさまにつねにきこえ給わか　くしかるへき御あはひならねは御かへりもとき　くにつけてきこえかはし給ふむかしよりもこよなくうちくしとゝのひはてにたる御けはひをみ給にも猶しのひかたくてむかしの中納言の君のもとにも心ふかき事ともをつねにの給ふかの人のせうとなるいつみのさきのかみをめしよせてわか　くしくいにしへにかへりてかたらひ給人つてならてものこしにきこえしらすへきことなんあるさりぬへくきこえなひかしていみしくしのひてまいらむいまはさやうのありきもところせき身の程におほろけならすしのふれはそこにも又人にはもらし給はしとおもふにかたみにこゝろやすくなんなとの給かむの君いてやよのなかを思しるにつけてもむかしよりつらき御心をこゝら思つめつるとしころのはてにあはれにかなしき御ことをさしをきていかなるむかしかたりをかきこえむけに人はもりきかぬやうありとも心のとはんこそいとはつかしかるへけれとうちなけき給つゝなをさらにあるましきよしをのみきこゆいにしへわりなかりし世にたに心かはし給はぬ事にもあらさりしをけにそむき給ぬる御ためうしろめたきやうにはあれとあらさりし事にもあらねはいましもけさやかにきよまはりてたちにし我名いまさらにとりかへし給へきにやとおほしをこしてこのしのたのもりをみちのしるへにてまうて給女君にはひんかしの院にものするひたちの君のひころわつらひてひさしくなりにけるを物さはかしきまきれにとふらはねはいとおしくてなんひるなとけさやかにわたらむもひんなきをよのまにしのひてとなん思侍る人にもかくともしらせしときこえ給ていといたく心けさうし給をれいはさしもみえ給はぬあたりをあやしとみ給て思あはせ給事もあれとひめ宮の御こととののちはなにこともいとすきぬるかたのやうにはあらすすこしへたつる心そひてみしらぬやうにておはすその日はしん殿へもわたり給はて御ふみかきかはし給たき物なとに心をいれてくらし給ふよひすくしてむつましき人のかきり四五人はかりあしろくるまのむかしおほえてやつれたるにていて給いつ

みのかみして御せうそこきこえ給かくわたりおはしましたるよしさゝめきゝこゆれはおとろき給てあやしくいかやうにきこえたるにかとむつかり給へとおかしやかにてかへしたてまつらむにいとひんなう侍らむとてあなかちに思めくらしていれたてまつる御とふらひなときこえ給てたゝこゝもとに物こしにてもさらにむかしのあるましき心なとはのこらすなりにけるをとわりなくきこえたまへはいたくなけく　くゐさりいて給へりされはよ猶けちかさはとかつおほさるかたみにおほろけならぬ御みしろきなれはあはれもすくなからすひんかしのたいなりけりたつみのかたのひさしにするゑたてまつりてみさうしのしりはかためたれはいとわかやかなる心ちもするかなとし月のつもりをもまきれなくかそへらるゝこゝろならひにかくおほめかしきはいみしうつらくこそとうらみきこえ給夜いたくふけ行たまもにあそふをしのこゑ　くなとあはれにきこえてしめ

くと人めすくなき宮のうちのありさまもさもうつり行世哉とおほしつゝくるに平中かまねならねとまことに涙もろになんむかしにかはりておとなおとなしくはきこえ給ものからこれをかくてやとひきうこかしたまふ

とし月を中にへたてゝあふさかのさもせきかたくおつる涙か女

なみたのみせきとめかたきしみつにて行あふみちはゝやくたえにきなとかけはなれきこえ給へといにしへをおほしいつるもたれによりおほうはさるいみしきこともありし世のさはきそはと思いて給にけにいま一たひのたいめむはありもすへかりけりとおほしよはるももとよりつしやかなる所はおはせさりし人のとしころはさま　くに世中を思しりきしかたをくやしくおほやけわたくしの事にふれつゝかすもなくおほしあつめていといたくすくし給にたれとむかしおほえたる御たいめんにそのよの事もとをからぬ心地してえ心つよくもゝてなし給はすなをらう　くしくわかうなつかしくてひとかたならぬ世のつゝましさをもあはれをも思みたれてなけきかちにてものし給けしきなといまはしめたらむよりもめつらしくあはれにてあけ行もいとくちおしくていてたまはんそらもなしあさほらけのたゝならぬ空にもゝちとりのこゑもいとうらゝかなり花はみなちりすきてなこりかすめるこすゑのあさみとりなるこたちむかしふちのえむし給しこのころの事なりけんかしとおほしいつるとし月のつもりにけるほともそのおりの事かきつゝけあはれにおほさる中納言の君みたてまつりをくるとてつまとおしあけたるにたちかへり給てこのふちよいかにそめけむいろにかなをえならぬ心そふにほひにこそいかてかこのかけをはたちはなるへきとわりなくいてかてにおほしやすらひたり山きはよりさしいつる日のはなやかなるにさしあ

ひめもかゝやく心ちする御さまのこよなくねひくはゝり給へる御けはひなとをめつらしくほとへてもみたてまつるはましてよのつねならすおほゆれはさるかたにてもなとかみたてまつりすくし給はさらむ御宮つかへにもかきりありてきはことにはなれ給事もなかりしをこ宮のよろつに心をつくしたまひよからぬ世のさはきにかる　くしき御名さへひゝきてやみにしよなと思いてらるなこりおほくのこりぬらん御物かたりのとちめはけにのこりあらせまほしきわさなめるを御身を心にえまかせ給ましくこゝらの人めもいとおそろしくつゝましけれはやう　くさしあかり行に心あはたゝしくてらうのとに御車さしよせたる人ゝもしのひてこはつくりきこゆ人めしてかのさきかゝりたるはなひとえたおらせ給へり

しつみしもわすれぬものをこりすまに身もなけつへきやとの藤なみいといたくおほしわつらひてよりゐ給へるを心くるしうみたてまつる女君もいまさらにいとつゝましくさま　くに思みたれ給へるに花のかけは猶なつかしくて

身をなけんふちもまことのふちならてかけしやさらにこりすまの浪いとわかやかなる御ふるまひを心なからもゆるさぬことにおほしなからせきもりのかたからぬたゆみにやいとよくかたらひをきていて給そのかみも人よりこよなく心とゝめて思ふ給へりし御心さしなからはつかにてやみにし御なからひにはいかてかはあはれもすくなからむいみしくしのひいり給へるおほんねくたれのさまをまちうけて女君さはかりならむと心え給へれとおほめかしくもてなしておはす中　くうちふすへなとし給へらむよりも心くるしくなとかくしもみはなち給つらむとおほさるれはありしよりけにふかき契をのみなかき世をかけてきこえ給かんの君の御事又もらすへきならねといにしへのこともしり給へれはまほにはあらねとものこしにはつかなりつるたいめなんのこりある心ちするいかて人めとかめあるましくもてかくしていまひとたひもとかたらひきこえ給うちわらひていまめかしくもなりかへる御ありさまかなむかしをいまにあらためくはへ給ほとなかそらなる身のためくるしくとてさすかに涙くみ給へるまみのいとらうたけにみゆるにかう心やすからぬ御けしきこそくるしけれたゝおひらかにひきつみなとしてをしへ給へへたてあるへくもならはしきこえぬをおもはすにこそなりにける御心なれとてよろつに御心とり給程になに事もえのこし給はすなりぬめり宮の御方にもとみにえわたりたまはすこしらへきこえつゝおはしますひめ宮はなにともおほしたらぬを御うしろみともそやすからすきこえけるわつらはしうなとみえ給けしきならはそなたもまして心くるしかるへきをおいら

かにうつくしきもてあそひくさに思きこえ給へりきりつほの御方はうちはええまかてたまはす御いとまのありかたけれは心やすくならひ給へるわかき御心にいとくるしくのみおほしたり夏ころなやましくし給をとみにもゆるしきこえたまはねはいとわりなしとおほすめつらしきさまの御こゝちにそありけるまたいとあえかなるおほむほとにいとゆゝしくそたれも　くおほすらむかしからうしてまかて給へりひめ宮のおはしますおとゝのひんかしおもてに御方はしつらひたりあかしの御かたいまは御身にそひていていり給もあらまほしき御すくせなりかしたいのうへこなたにわたりてたいめし給ついてにひめ宮にもなかのとあけてきこえんかねてよりもさやうに思しかとついてなきにはつゝましきをかゝるおりにきこえなれなは心やすくなんあるへきとおとゝにきこえ給へはうちゑみて思やうなるへき御かたらひにこそはあなれいとをさなけにものし給めるをうしろやすくをしへなし給へかしとゆるしきこえ給宮よりもあかしの君のはつかしけにてましらむをおほせは御くしすましひきつくろひておはするたくひあらしとみえ給へりおとゝは宮の御方にわたり給てゆふかたかのたいに侍人のしけいさにたいめんせんとていてたつそのついてにちかつききこえさせまほしけに物すめるをゆるしてかたらひ給へ心なとはいとよき人なりまたわか　くしくて御あそひかたきにもつきなからすなんなときこえ給はつかしうこそはあらめなにことをかきこえんとおひらかにの給人のいらへはことにしたかひてこそはおほしいてめへたてをきてもてなし給そとこまかにをしへきこえ給御なかうるはしくてすくし給へとおほすあまりになに心もなき御ありさまをみあらはされんもはつかしくあちきなけれとさのたまはんを心へたてんもあいなしとおほすなりけりたいにはかくいてたちなとし給ものからわれよりかみの人やはあるへき身のほとなるものはかなきさまをみえをきたてまつりたるはかりこそあらめなと思つゝけられてうちなかめ給てならひなとするにもをのつからふることもものおもはしきすちにのみかゝるゝをさらは我身には思ふことありけりと身なからそおほししらるゝ院わたり給て宮女御の君なとのおほんさまともをうつくしうもおはするかなとさま　くみたてまつり給へる御めうつしにはとしころめなれ給へる人のおほろけならむかいとかくおとろかるへきにもあらぬを猶たくひなくこそはとみ給ありかたき事なりかしあるへきかきりけたかうはつかしけにとゝのひたるにそひてはなやかにいまめかしくにほひなまめきたるさま　くのかほりもとりあつめゝてたきさかりにみえ給ふこそよりことしはまさりきのふよりけふはめつらしくつねにめなれぬさまのし給へるをいかてかくしもあり

けんとおほすうちとけたりつる御てならひをすゝりのしたにさしいれ給へれとみつけ給ひてひきかへしみ給てなとのいとわさとも上手とみえてらう　くしくうつくしけにかき給へり

　身にちかく秋やきぬらんみるまゝにあを葉の山もうつろひにけりとある所にめとゝめ給て

　水鳥のあをははいろもかはらぬを萩のしたこそけしきことなれなとかきそへつゝすさひ給ことにふれて心くるしき御けしきのしたにはをのつからもりつゝみゆるをことなくけち給へるもありかたくあはれにおほさるこよひはいつかたにも御いとまありぬへけれはかのしのひ所にいとわりなくていて給にけりいとあるましきことといみしくおほしかへすにもかなはさりけり東宮の御方はしちのはゝ君よりもこの御かたをはむつましき物にたのみきこえ給へりいとうつくしけにをとなひまさり給へるを思へたてすかなしとみたてまつり給御ものかたりなといとなつかしくきこえかはし給てなかのとあけて宮にもたいめし給へりいとをさなけにのみみえ給へは心やすくておとな　くしくおやめきたるさまにむかしの御すちをもたつねきこえ給ふ中納言のめのとゝいふめしいてゝおなしかさしをたつねきこゆれはかたしけなけれとわかぬさまにきこえさすれとついてなくて侍つるをいまよりはうとからすあなたなとにもゝのし給てをこたらむことはおとろかしなともものし給はんなんうれしかるへきなとのたまへはたのもしき御かけともにさま　くにをくれきこえ給て心ほそけにおはしますめるをかゝる御ゆるしのはへめれはますことなくなんおもふ給へられけるそむき給にしうへの御心むけもたゝかくなん御心へたてきこえ給はすまたいはけなき御ありさまをもはくゝみたてまつらせ給へくそはへめりしうちうちにもさなんたのみきこえさせ給しなときこゆいとかたしけなかりし御せうそこのゝちはいかてとのみ思侍れとなに事につけても数ならぬ身なむくちおしかりけるとやすらかにをとなひたるけはひにて宮にも御心につき給へくゑなとの事ひいなのすてかたきさまわかやかにきこえ給へはけにいとわかく心よけなる人かなとをさなき御心ちにはうちとけ給へりさてのちはつねに御ふみかよひなとしておかしきあそひわさなとにつけてもうとからすきこえかはし給世の中の人もあいなうかはかりになりぬるあたりの事はいひあつかふものなれはゝしめつかたはたいのうへいかにおほすらむ御おほえいとこのとしころのやうにはおはせしすこしはをとりなんなといひけるをいますこしふかき御心さしかくてしもまさるさまなるをそれにつけても又やすからすいふ人ゝあるにかくにくけなくさへきこえか

はし給へはことなをりてめやすくなむありける神な月にたいのうへ院の御賀にさかのゝみたうにて薬師ほとけくやうしたてまつり給いかめしきことはせちにいさめ申給へはしのひやかにとおほしをきてたりほとけ経はこちすのとゝのへまことのこくらく思やらるさいそわう経こんかうはむにや寿命経なといとゆたけき御いのりなりかんたちめいとおほくまいり給へり御たうのさまおもしろくいはむかたなくもみちのかけわけ行野へのほとよりはしめて見物なるにかたへはきほひあつまり給なるへししもかれわたれる野はらのまゝにむまくるまの行ちかふをとしけくひゝきたり御すきやうわれも　くと御かた　くいかめしくせさせ給ふ廿三日を御としみの日にてこの院はかくすきまなくつとひ給へるうちに我御わたくしのとのとおほす二条院にてその御まうけせさせ給御さうそくをはしめおほかたの御事ともゝみなこなたにのみし給御かた　くもさるへき事ともわけつゝのそみつかうまつり給たいともは人のつほね　くにしたるをはらひて殿上人諸大夫院司しも人までのまうけいかめしくせさせ給へりしん殿のはなちいてをれいのしつらひにてらてんのいしたてたりおとゝのにしのまに御そのつくゑ十二たてゝ夏冬の御よそひ御ふすまなとれいのことくむらさきのあやのおほいともうるはしくみえわたりてうちの心はあらはならす御前にをきものゝつくえふたつからの地のすそこのおほゐしたりかさしのたいはちんのくゑそくこかねのとりしろかねの枝にゐたる心はえなとしけいさの御あつかりにてあかしの御方のせさせ給へるゆへふかく心ことなりうしろの御屏風四帖は式部卿宮なむせさせ給けるいみしくつくしてれいの四季のゑなれとめつらしきせんすいたんなとめなれすおもしろし北のかへにそへてをき物のみつしふたよろひたてゝ御てうとゝもれいのことなりみなみのひさしにかむたちめ左右の大臣式部卿宮をはしめたてまつりてつき　くはましてまいり給はぬ人なしふたいの左右に楽人のひらはりうちてにしひんかしにとんしき八十くろくのからひつ四十つらつゝけてたてたりひつしの時はかりに楽人まいる万歳楽皇上なとまいて日くれかゝるほとにこまのらんしやうしてらくそんまいゝてたるほと猶つねのめなれぬ舞のさまなれはまひはつる程に権中納言衛門督おりていりあやをほのかにまひて紅葉のかけに入ぬるなこりあかすけうありと人ゝおほしたりいにしへの朱雀院の行幸に青海波のいみしかりしゆふへ思いて給人ゝは権中納言衛門督又おとらすたちつゝき給にけるよゝのおほえ有さまかたちよういなともおさ　くをとらすつかさくらゐはやゝすすみてさへこそなとよはひの程をもかそへてなをさるへきにてむかしよりかくたちつゝきたる御なからひなりけりとめてたくお

もふあるしの院もあはれに涙くましくおほしいてらるゝ事ともおほかり夜にいりて楽人ともまかりいつ北のまん所の別富とも人〻ひきいてろくのからひつによりて一つゝとりてつきつきたまふしろき物ともをしなしなかつきて山きはよりいけのつゝみすくるほとのよそめはちとせをかねてあそふつるのけころもに思まかへらる御あそひはしまりて又いとおもしろし御ことゝもは春宮よりそとゝのへさせ給ける朱雀院よりわたりまいれるひはきん内よりたまはり給へるさうの御ことなとみなむかしおほえたるものゝねともにてめつらしくかきあはせ給へるになにのをりにもすきにしかたの御ありさまうちわたりなとおほしいてらる故入道の宮おはせましかはかゝる御賀なとわれこそすゝみつかうまつらましかなに事につけてかは心さしもみえたてまつりけんとあかすくちおしくのみ思いてきこえ給ふ内にもこ宮のおはしまさぬことをなにことにもはえなくさう

くしくおほさるゝにこの院の御ことをたにれいのあとあるさまのかしこまりをつくしてもえみせたてまつらぬをよとゝもにあかぬ心地し給もことしは此御賀にことつけてみゆきなともあるへくおほしをきてけれと世中のわつらひならむことさらにせさせ給ましくなんといなひ申給ことたひ　くになりぬれはくちおしくおほしとまりぬしはすの廿日あまりの程に中宮まかてさせ給てことしのゝこりの御いのりにならの京の七大寺に御す行のぬの四千たんこのちかきみやこの四十寺にきぬ四百疋をわかちてせさせ給ありかたき御はくゝみをおほしりなからなに事につけてかはふかき御心さしをもあらはし御覧せさせ給はんとてちゝ宮はゝみやす所のおはせまし御ための心さしをもとりそへおほすにかくあなかちにおほやけにもきこえかへさせ給へは事ともおほくとゝめさせ給つ四十の賀といふことはさき　くをきゝ侍にものこりのよはひひさしきためしなんすくなかりけるをこのたひは猶世のひゝきとゝめさせ給てまことにのちにたらん事をかそへさせ給へとありけれとおほやけさまにて猶いといかめしくなんありける宮のおはしますまちのしんてんに御しつらひなとしてさき　くにことかはらすかむたちめのろくなと大きやうになすらへて御子たちにはことに女のさうそく非参議の四位まうちきんたちなとたゝの殿上人にはしろきほそなかひとかさねこしさしなとまてつき　くに給ふさうそくかきりなくきよらをつくして名たかきおひ御はかしなと故前坊の御方さまにてつたはりまいりたるも又あはれになんふるきよの一の物と名あるかきりはみなつとひまいる御賀になんあめるむかし物かたりにもものえさせたるをかしこきことにはかそへつゝけためれといとうるさくてこちたき御なからひのことゝもはえそかそへあえはへらぬや

内にはおほしそめてしことゝもをむけにやはとて中納言にそつけさせ給てけるそのころの右大将やまゐしてしし給けるをこの中納言に御賀の程よろこひくはへんとおほしめしてにはかになさせ給つ院もよろこひきこえさせ給ふものからいとかくにはかにあまるよろこひをなむいちはやき心ちし侍とひけし申給うしとらのまちに御しつらひまうけ給てかくろへたるやうにしなし給へれとけふはなをはたことにきしきまさりて所ゝのきやうなともくらつかさこくさう院よりつかうまつらせ給へりとんしきなとおほやけさまにて頭中将せむしうけ給てみこたち五人左右おとゝ大納言ふたり中納言三人宰相五人殿上人はれいの内東宮院のこるすくなしおまし御てうとゝもなとはおほきおとゝくはしくうけ給はりてつかうまつらせ給へりけふはおほせ事ありてわたりまいり給へり院もいとかしこくおとろき申給て御座につき給ぬもやの御座にむかへておとゝの御座ありいときよらにもの　くしくふとりてこのおとゝそいまさかりのしうとくとはみえ給へるあるしの院は猶いとわかき源氏の君にみえ給御ひやう風四帖にうちの御てかゝせ給へるからのあやのうすたんにしたゑのさまなとおろかならむやはおもしろき春秋のつくりゑなとよりもこの御屏風のすみつきのかゝやくさまはめもをよはす思なしさへめてたくなむありけるをきものゝみつしひきものふきものなと蔵人所よりたまはり給へり大将の御いきをひもいといかめしくなりたまひにたれはうちそへてけふのさほういとことなり御むま四十疋左右のむまつかさ六衛府の官人かみよりつき　くにひきとゝのふるほとひくれはてぬれいの万さい楽賀王恩なといふまひけしきはかりまひておとゝのわたり給へるにめつらしくもてはやし給へる御あそひにみな人心をいれ給へりひはゝれいの兵部卿宮なにことにも世にかたき物の上すにおはしていとになしおまへにきんの御ことおとゝわこんひき給としころそひ給にける御みゝのきゝなしにやいというにあはれにおほさるれはきんも御ておさ　くかくしたまはすいみしきねともいつむかしの御ものかたりともなといてきていまはたかゝる御なからひにいつかたにつけてもきこえかよひ給へき御むつひなと心よくきこえ給て御みきあまたたひまいりて物のおもしろさもとゝこほりなく御ゑいなきともえとゝめ給はす御をくり物にすくれたるわこんひとつこのみ給こまふえそへてしたんのはこひとよろひにからの本ともこゝのさうの本なといれて御くるまにをひてたてまつれ給御馬ともむかへとりて右つかさともこまのかくしてのゝしるろくゑふの官人のろくとも大将給ふ御心とそき給ていかめしきことゝもはこのたひとゝめ給へれと内東宮一院きさいの宮つきつきの御ゆかりいつくしきほといひしらすみえ

にたることなれは猶かゝるおりにはめてたくなんおほえける大将のたゝひとゝころおはするをさう　くしくはえなき心ちせしかとあまたの人にすくれおほえことに人からもかたはらなきやうにものし給にもかのはゝ北の方の伊勢の宮す所とのうらみふかくいとみかはし給けんほとの御すくせとも行すゑみえたるなむさま　くなりけるその日の御さうそくともなとこなたのうへなむし給けるろくともおほかたの事をそ三条の北の方はいそき給めりしおりふしにつけたる御いとなみうち　くの物のきよらをもこなたにはたゝよその事にのみきゝわたり給をなに事につけてかはかゝるもの　くしきかすにもましらひ給はましとおほえたるを大将の君の御ゆかりにいとよくかすまへられ給へりとしかへりぬきりつほの御方ちかつきたまいぬるにより正月朔日より御すほうふたんにせさせ給てら　くやしろ　くの御いのりはたかすもしらすおとゝの君ゆゝしきことをみ給へてしかはかゝるほとの事はいとおそろしき物におほしゝみたるをたいのうへなとのさることし給はぬはくちおしくさう　くしき物からうれしくおほさるゝにまたいとあえかなる御ほとにいかにおはせんとかねておほしさはくに二月はかりよりあやしく御けしきかはりてなやみ給に御心ともさはくへしおんやうしともゝ所をかへてつゝしみ給ふへく申けれはほかのさしはなれたらむはおほつかなしとてかのあかしの御まちのなかのたいにわたしたてまつり給ふこなたはたゝおほきなるたいふたつらうともなむめくりてありけるに御すほうのたんひまなくぬりていみしきけんさともつとひてのゝしるはゝ君此時に我御すくせもみゆへきわさなめれはいみしき心をつくし給かのおほあま君もいまはこよなきほけ人にてそありけむかしこの御ありさまをみたてまつるはゆめの心ちしていつしかとまいりちかつきなれたてまつるとしころはゝ君はかうそひさふらひ給へとむかしのことなとまほにしもきこえしらせ給はさりけるをこのあま君よろこひにえたへてまいりてはいと涙かちにふるめかしき事ともをわなゝきいてつゝかたりきこゆはしめつかたはあやしくむつかしき人かなとうちまほり給しかとかゝるひとありとはかりはほのきゝをき給へれはなつかしくもてなし給へりむまれ給し程の事おとゝの君のかのうらにおはしましたりしありさまいまはとて京へのほり給しにたれも心をまとはしていまはかきりかはかりの契にこそはありけれとなけきしをわか君のかくひきたすけ給へる御すくせのいみしくかなしきことゝほろ　くとなけはけにあはれなりけるむかしの事をかくきかせさらましかはおほつかなくてもすきぬへかりけりとおほしてうちなき給心のうちには我身はけにうけはりていみしかるへきゝはにはあらさりけるをたいのう

への御もてなしにみかゝれて人の思へるさまなともかたほにはあらぬなりけり
人をはまたなき物に思けちこよなき心おこりをはしつれ世の人はしたにいひ
つるやうもありつらむかしなとおほししりはてぬはゝ君をはもとよりかくすこ
しおほえくたれるすちとしりなからむまれ給けん程なとをはさる世はなれたる
さかひにてなともしり給はさりけりいとあまりおほとき給へるけにこそはあや
しくおほ　くしかりけることなりやかの入道のいまは仙人の世にもすまぬやう
にてゐたなるをきゝ給も心くるしくなとかた　くに思みたれ給ぬいとものあは
れになかめておはするに御方まいり給て日中の御かちにこなたかなたよりまい
りつとひ物さはかしくのゝしるに御まへにこと人もさふらはすあま君ところえ
ていとちかくさふらひ給あなみくるしやみしかき御木丁ひきよせてこそさふら
ひ給はめ風なとさはかしくてをのつからほころひのひまもあらむにくすしなと
やうのさましていとさかりすき給へりやなとなまかたはらいたく思給へりよし
めきそしてふるまふはおほゆめれとももう　くにみゝもおほ　くしかりけれは
あゝとかたふきてゐたりさまはいとさいふはかりにもあらすかし六十五六の程
なりあますかたいとかはらかにあてなるさましてめつやゝかになきはれたるけ
しきのあやしくむかし思いてたるさまなれはむねうちつふれてこたいのひか事
ともや侍つらむよくこのよのほかなるやうなるひかおほえともにとりませつゝ
あやしきむかしの事ともゝいてまうてきつらんはやゆめのこゝちこそし侍れと
うちほゝえみてみたてまつり給へはいとなまめかしくきよらにてれいよりもい
たくしつまり物おほしたるさまにみえ給我こともおほえたまはすかたしけなき
にいとおしき事ともをきこえ給ておほしみたるゝにやいまはかはかりと御くら
ゐをきはめ給はんよにきこえもしらせんとこそおもへくちおしくおほしすつへ
きにはあらねといと　くおしく心をとりし給らんとおほゆ御かちはてゝまかて
ぬるに御くた物なとちかくまかなひなしこれはかりをたにといと心くるしけに
思てきこえ給あま君はいとめてたうゝつくしうみたてまつるまゝにも涙はえと
ゝめすかほはえみてくちつきなとはみくるしくひろこりたれとまみのわたりう
ちしくれてひそみゐたりあなかたはらいたとめくはすれときゝもいれす
　おいのなみかひあるうらにたちいてゝしほたるゝあまをたれかとかめむむ
かしの世にもかやうなるふる人はつみゆるされてなん侍けるときこゆ御すゝり
なるかみに
　しほたるゝあまを浪路のしるへにてたつねもみはやはまのとまやを御かた
もえしのひ給はてうちなき給ぬ

よをすてゝあかしのうらにすむ人も心のやみはゝるけしもせしなときこえ
まきらはし給わかれけんあか月のことも夢の中におほしいてられぬをくちおし
くもありけるかなとおほすやよひの十よ日の程にたいらかにむまれ給ぬかねて
はおとろ　くしくおほしさはきしかといたくなやみ給事なくておとこみこさへ
おはすれはかきりなくおほすさまにておとゝも御心おちゐ給ぬこなたはかくれ
のかたにてたゝけちかき程なるにいかめしき御うふやしなひなとのうちしきり
ひゝきよそをしき有さまけにかひあるうらとあま君のためにはみえたれときし
きなきやうなれはわたり給なむとすたいのうへもわたり給へりしろき御さうそ
くし給て人のおやめきてわか宮をつといたきてゐ給へるさまいとおかし身つか
らかゝることしり給はす人のうへにてもみならひ給はねはいとめつらかにうつ
くしと思きこえ給へりむつかしけにおはする程をたえすいたきとり給へはまこ
とのをは君はたゝまかせたてまつりて御ゆ殿のあつかひなとをつかうまつり給
春宮の宣旨なる内侍のすけそつかうまつる御むかへゆにおりたち給へるもいと
あはれにうち　くの事もほのしりたるにすこしかたほならはいとおしからまし
をあさましくけたかくけにかゝる契ことにものし給ける人かなとみきこゆこの
程のきしきなともまねひたてんにいとさらなりや六日といふにれいのおとゝに
わたり給ぬ七日の夜内よりも御うふやしなひの事あり朱雀院のかく世をすてお
はします御かはりにや蔵人所より頭弁宣旨うけ給はりてめつらかなるさまにつ
かうまつれりろくのきぬなと又中宮の御方よりもおほやけことにはたちまさり
いかめしくせさせ給つき　くの御子たち大臣のいゐ　くそのころのいとなみに
てわれも　くときよらをつくしてつかうまつり給おとゝの君もこのほとの事と
もはれいのやうにもことそかせ給はて世になくひゝきこちたき程にうち　くの
なまめかしくこまかなる宮ひのまねひつたふへきふしはめもとまらすなりにけ
りおとゝの君もわか宮をほとなくいたきたてまつり給ひて大将のあまたまうけ
たなるをいまゝてみせぬかうらめしきにかくらうたき人をそえたてまつりたる
とうつくしみきこえ給ふはことはりなりやひゝにものをひきのふるやうにおよ
すけ給御めのとなと心しらぬはとみにめさてさふらふ中にしな心すくれたるか
きりをえりてつかうまつらせ給御かたの御心をきてのらう　くしくけたかくお
ほとかなる物のさるへきかたにはひけしてにくらかにもうけはらぬなとをほめ
ぬ人なしたいのうへはまほならねとみえかはし給てさはかりゆるしなくおほし
たりしかといまは宮の御とくにいとむつましくやむことなくおほしなりにたり
ちこうつくしみし給御心にてあまかつなと御てつからつくりそゝくりおはすも

いとわか　くしあけくれこの御かしつきにてすくし給かのこたいのあま君はわか宮をえ心のとかにみたてまつらぬなんあかすおほえける中　くみたてまつりそめてこひきこゆるにそいのちもえたふましかめるかのあかしにもかゝる御ことつたへきゝてさるひしり心ちにもいとうれしくおほえけれはいまなんこの世のさかいを心やすくゆきはなるへきと弟子ともにいひてこのいへをはてらになしあたりの田なとのやうの物はみなその寺の事にしをきてこの国のおくのこほりに人もかよひかたくふかきやまあるをとしころもしめをきなからあしこにこもりなむのち又人にはみえしらるへきにもあらすと思てたゝすこしのおほつかなき事のこりけれはいまゝてなからへけるをいまはさりともとほとけ神をたのみ申てなむうつろひけるこのちかきとしころとなりては京にことなる事ならて人もかよはしたてまつらさりつこれよりくたし給人はかりにつけてなむひとくたりにてもあま君さるへきおりふしの事もかよひける思ひはなるゝよのとちめにふみかきて御かたにたてまつれ給へりこのとしころはおなし世中のうちにめくらひ侍りつれとなにかはかくなから身をかへたるやうに思給へなしつゝさせることなきかきりはきこえうけ給はらすかなふみゝたまふるはめのいとまいりて念仏もけたいするやうにやくなうてなん御せうそこもたてまつらぬをつてにうけたまはれはわか君は春宮にまいり給ておとこ宮むまれ給へるよしをなむふかくよろこひ申侍るそのゆへは身つからかくつたなき山ふしの身にいまさらにこのよのさかえを思にも侍らすすきにしかたのとしころ心きたなく六時のつとめにもたゝ御ことを心にかけてはちすのうへのつゆのねかひをはさしをきてなむねんしたてまつりしわかおもとむまれ給はんとせしそのとしの二月のその夜のゆめにみしやう身つからすみの山を右のてにさゝけたり山の左右より月日のひかりさやかにさしいてゝよをてらす身つからは山のしものかけにかくれてその光にあたらす山をはひろき海にうかへをきてちいさき舟にのりてにしのかたをさしてこき行となんみ侍し夢さめてあしたよりかすならぬ身にたのむところいてきなからなに事につけてかさるいかめしきことをはまちいてむと心のうちに思ひはへしをそのころよりはらまれ給にしこなたそくのかたのふみをみ侍しにも又内教の心をたつぬる中にも夢をしんすへきことおほく侍しかはいやしきふところのうちにもかたしけなくおもひいたつきたてまつりしかとちからをよはぬ身におもふ給へかねてなむかゝるみちにおもむき侍にしまたこの国のことにしつみ侍て老のなみにさらにたちかへらしと思ひとちめてこのうらにとしころ侍しほともわか君をたのむことに思きこえ侍しかはなむ心ひとつにおほくの

願をたてはへりしそのかへり申たいらかに思のこと時にあひ給わか君くにのはゝとなり給てねかひみち給はんよにすみよしのみやしろをはしめはたし申給へさらになにことをかはうたかひ侍らむこのひとつの思ひちかき世にかなひ侍りぬれははるかにゝしのかた十万億の国へたてたる九品のうへのゝそみうたかひなくなり侍りぬれはいまはたゝむかふるはちすをまちはへるほとそのゆふへまて水草きよき山のするにてつとめ侍らむとてなむまかりいりぬる

ひかりいてんあか月ちかくなりにけりいまそみしよの夢かたりするとて月日かきたりいのちをはらむ月日もさらになしろしめしそいにしへより人のそめをきける藤衣にもなにかやつれ給はんたゝ我身はへん化の物とおほしなして老法師のためには功徳をつくり給へこのよのたのしみにそへてものちのよをわすれ給ふなねかひ侍る所にたにいたり侍なはかならす又たいめんは侍りなむさはのほかのきしにいたりてとくあひみんとをおほせさてかのやしろにたてあつめたる願ふみともをおほきなるちんのふはこにふむしこめてたてまつりたまへりあま君にはこと　くにもかゝすたゝこの月の十四日になむ草のいほりまかりはなれてふかき山にいり侍りぬるかひなき身をはくまおほかみにも施し侍なんそこには猶思しやうなる御よをまちいて給へあきらかなる所にて又たいめんはありなむとのみありあま君このふみをみてかのつかひの大とこにとへはこの御文かき給て三日といふになむかのたえたるみねにうつろひ給にしなにかしらもかの御をくりにふもとまてはさふらひしかみなかへし給て僧一人わらは二人なん御ともにさふらはせ給いまはとよをそむき給しおりをかなしきとちめと思給へしかとのこり侍けりとしころをこなひのひま　くによりふしなからかきならし給しきんの御ことひはとりよせ給てかいしらへ給つゝほとけにまかり申し給てなんみたうに施入し給しさらぬ物ともゝおほくはたてまつり給てそのゝこりをなん御弟子とも六十余人なんしたしきかきりさふらひけるほとにつけてみな処分し給て猶しのこりをなん京の御れうとてをくりたてまつり給へるいまはとてかきこもりさるはるけき山の雲かすみにましり給にしむなしき御あとにとまりてかなしひおもふ人ゝなんおほく侍るなとこのたいとこもわらはにて京よりくたりけるふる人の老法しになりてとまれるいとあはれに心ほそしと思へりほとけの御弟子のさかしきひしりたにわしのみねをはたと　くしからすたのみきこえなから猶たき木つきける夜のまとひはふかゝりけるをましてあま君のかなしと思給へることかきりなし御方はみなみのおとゝにおはするをかゝる御せうそこなんあるとありけれはしのひてわたり給へりをも　くしく身をもてなしてお

ほろけならてはかよひあひみ給こともかたきをあはれなる事なんときゝておほ
つかなけれはうちしのひてものし給へるにいといみしくかなしけなるけしきに
てゐ給へり火ちかくとりよせて此ふみをみ給にけにせきとめんかたそなかりけ
るよの人はなにともめとゝむましきことのまつむかしきしかたの事思いてこひ
しと思わたり給心にはあひみてすきはてぬるにこそはとみ給にいみしくいふか
ひなし涙をえせきとめすこの御ゆめかたりをかつは行さきたのもしくさはひか
心にて我身をさしもあるましきさまにあくからし給となかころ思たゝよはれし
ことはかくはかなき夢にたのみをかけて心たかくものし給なりけりとかつ　く
思あはせ給あまきみひさしくためらひて君の御とくにはうれしくをもたゝしき
ことをも身にあまりてならひなく思侍りあはれにいふせき思ひもすくれてこそ
侍けれかすならぬかたにてもなからへし都をすてゝかしこにしつみゐしをたに
よ人にたかひたるすくせにもあるかなと思ひはへしかといけるよにゆきはなれ
へたたるへき中の契とは思かけすおなしはちすにすむへきのちのよのたのみを
さへかけてとし月をすくしきてにはかにかくおほえぬ御こといてきてそむきに
し世にたちかへりてはへるかひある御事をみたてまつりよろこふものからかた
つかたにはおほつかなくかなしきことのうちそひてたえぬをつゐにかくあひみ
すへたてなからこのよをわかれぬるなんくちおしくおほえはへる世にへし時た
に人ににぬ心はえによりよをもてひかむるやうなりしをわかきとちたのみなら
ひてをの　くは又なく契をきてけれはかたみにいとふかくこそたのみ侍しかい
かなれはかくみゝにちかき程なからかくてわかれぬらんといひつゝけていとあ
はれにうちひそみ給御方もいみしくなきて人にすくれん行さきのこともおほえ
すやかすならぬ身にはなに事もけさやかにかひあるへきにもあらぬものからあ
はれなるありさまにおほつかなくてやみなむのみこそくちおしけれよろつの事
さるへき人の御ためとこそおほえはへれさてたえこもり給なは世中もさためな
きにやかてきえ給なはかひなくなんとてよもすからあはれなる事ともをいひつ
ゝあかし給きのふもおとゝの君のあなたにありとみをき給てしをにはかにはひ
かくれたらむもかろ　くしきやうなるへし身ひとつはなにはかりも思はゝかり
侍らすかくそひ給御ためなとのいとおしきになむ心にまかせて身をももてなし
にくかるへきとてあか月にかへりわたり給ぬわか宮はいかゝおはしますいかて
かみたてまつるへきとてもなきぬいまみたてまつり給てん女御の君もいとあは
れになむおほしいてつゝもし世中思ふやうならはゆゝしきかねことなれとあま
君その程まてなからへ給はなんとの給ふめりきいかにおほすことにかあらむと

の給へは又うちゑみていてやされはこそさま　くためしなきすくせにこそ侍れ
とてよろこふこのふはこはもたせてまうのほり給ぬ宮よりとくまいり給へきよ
しのみあれはかくおほしたることはりなりめつらしきことさへそひていかに心
もとなくおほさるらむとむらさきのうへもの給てわか宮しのひてまいらせたて
まつらむ御心つかひし賜みやす所はおほんいとまの心やすからぬにこり給てか
ゝるついてにしはしあらまほしくおほしたり程なき御身にさるおそろしきこと
をし給へれはすこしおもやせほそりていみしくなまめかしき御さまし給へりか
くためらひかたくおはするほとつくろひ給てこそはなと御かたなとは心くるし
かりきこえ給をおとゝはかやうにおもやせてみえたてまつり給はむも中　くあ
はれなるへきわさなりなとの給たいのうへなとのわたり給ぬる夕つかたしめや
かなるに御かたおまへにまいり給てこのふはこきこえしらせ給おもふさまにか
なひはてさせ給まてはとりかくしてをきて侍へけれと世中さためかたけれはう
しろめたさになんなに事をも御心とおほしかすまへさらむこなたともかくもは
かなくなり侍なはかならすしもいまはのとちめを御らむせらるへき身にも侍ら
ねは猶うつし心うせすはへるよになむはかなき事をもきこえさせをくへく侍け
ると思ひ侍てむつかしくあやしきあとなれとこれも御らんせよこの願ふみはち
かきみつしなとにをかせ給てかならすさるへからむおりに御らむしてこのうち
のことゝもはせさせ給へうとき人にはなもらさせ給そかはかりとみたてまつり
をきつれは身つからもよをそむき侍なんとおもふ給へなりゆけはよろつ心のと
かにもおほえはへらすたいのうへの御こゝろをろかに思きこえさせ給ないとあ
りかたくものし給ふかき御けしきをみはへれは身にはこよなくまさりてなかき
御よにもあらなんとそ思はへるもとより御身にそひきこえさせんにつけてもつ
ゝましきみの程に侍れはゆつりきこえそめ侍にしをいとかうしも物し給はしと
なんとしころは猶よのつねにおもふ給へわたり侍つるいまはきしかた行さきう
しろやすく思なりにて侍りなといとおほくきこえ給涙くみてきゝおはすかくむ
つましかるへきおまへにもつねにうちとけぬさまし給てわりなくものつゝみし
たるさまなりこのふみのことはいとうたてこはくにくけなるさまをみちのくに
かみにてとしへにけれはきはみあつこえたる五六枚さすかにかうにいとふかく
しみたるにかき給へりいとあはれとおほして御ひたいかみのやう　くぬれゆく
御そはめあてになまめかし院はひめ宮の御かたにおはしけるをなかのみさうし
よりふとわたり給へれはえしもひきかくさて御きちやうをすこしひきよせて身
つからははたかくれ給へりわか宮はおとろき給へりやときのまもこひしきわさ

なりけりときこえ給へはみやす所はいらへもきこえ給はねは御方たいにわたしきこえ給へときこえ給いとあやしやあなたにこの宮をらうし奉りてふところをさらにはなたすもてあつかひつゝ人やりならすきぬもみなぬらしてぬきかへかちなめるかろ　くしくなとかくわたしたてまつり給こなたにわたりてこそみたてまつり給はめとの給へはいとうたて思くまなき御ことかな女におはしまさむにたにあなたにてみたてまつり給はんこそよく侍らめましておとこはかきりなしときこえさすれと心やすくおほえ給をたはふれにてもかやうにへたてかましき事なさかしかりきこえさせ給ひそときこえ給うちわらひて御なかともにまかせてみはなちきこゆへきなゝりなへたてゝいまはたれも　くさしはなちさかしらなとの給こそをさなけれまつはかやうにはひかくれてつれなくいひおとし給めりかしとて御木丁をひきやり給へれはもやのはしらによりかゝりていときよけに心はつかしけなるさまして物し給ありつるはこもまとひかくさんもさまあしけれはさておはするをなそのはこふかき心あらむけさう人のなかうたよみてふんしこめたる心ちこそすれとの給へはあなうたてやいまめかしくなりかへらせ給める御心ならひにきゝしらぬやうなる御すさひ事ともこそ時ゝいてくれとてほゝゑみ給へれと物あはれなりける御けしきともしるけれはあやしとうちかたふき給へるさまなれはわつらはしくてかのあかしのいはやよりしのひてはへし御いのりの巻数又またしき願なとのはへりけるを御こゝろにもしらせたてまつるへきおりあらは御覧しをくへくやとて侍をたゝいまはついてなくてなにかはあけさせ給はんときこえ給にけにあはれなるへきありさまそかしといかにをこなひましてすみ給にたらむ命なかくてこゝらのとしころのつとむるつみもこよなからむかし世の中によしありさかしきかた　くの人とてみるにもこの世にそみたる程のにこりふかきにやあらむかしこきかたこそあれいとかきりありつゝをよはさりけりやさもいたりふかくさすかにけしきありし人のありさまかなひしりたちこの世はなれかほにもあらぬものからしたの心はみなあらぬ世にかよひすみにたるとこそみえしかましていまは心くるしきほたしもなく思ひはなれにたらむをやかやすき身ならはしのひていとあはまほしくこそとの給ふいまはかの侍し所をもすてゝとりのねきこえぬ山にとなんきゝ侍ときこゆれはさらはそのゆいこむなゝりなせうそこはかよはし給やあま君いかに思給らむおやこの中よりもまたさるさまの契はことにこそゝふへけれとてうち涙くみ給へりとしのつもりに世中のありさまをとかく思しり行まゝにあやしくこひしく思いてらるゝ人のみありさまなれはふかき契のなからひはいかにあはれならむなとの

給ついてにこの夢かたりもおほしあはする事もやと思ていとあやしきほんしとかいふやうなるあとにはへめれと御らんしとゝむへきふしもやましり侍とてなんいまはとてわかれ侍にしかと猶こそあはれはのこり侍るものなりけれとてさまよくうちなき給ていとかしこく猶ほれ　くしからすこそあるへけれてなともすへてなにこともわさというそくにしつへかりける人のたゝこのよふるかたの心をきてこそすくなかりけれかのせんそのおとゝはいとかしこくありかたき心さしをつくしておほやけにつかうまつり給ける程にものゝたかひめありてそのむくひにかくするゑはなきなりなと人いふめりしを女子のかたにつけたれとかくていとつきなしといふへきにはあらぬもそこらのをこなひのしるしにこそはあらめなと涙おしのこひ給つゝこの夢のわたりにめとゝめ給ふあやしくひか　くしくすゝろにたかき心さしありと人もとかめ又われなからもさるましきふるまひをかりにてもするかなと思しことはこの君のむまれ給し時に契ふかく思しりにしかとめのまへにみえぬあなたの事はおほつかなくこそ思わたりつれさらはかゝるたのみありてあなかちにはのそみしなりけりよこさまにいみしきめをみたゝよひしもこの人ひとりのためにこそありけれいかなる願をか心におこしけむとゆかしけれは心のうちにおかみてとり給つこれは又くしてたてまつるへき物侍りいま又きこえしらせ侍らんと女御にはきこえ給そのついてにいまはかくいにしへのことをもたとりしり給ぬれとあなたの御心はへをおろかにおほしなすなもとよりさるへきなかえさらぬむつひよりもよこさまの人のなけのあはれをもかけひと事の心よせあるはおほろけのことにもあらすましてこゝになとさふらひなれ給をみる　くもはしめの心さしかはらすふかくねんころに思きこえたるをいにしへの世のたとへにもさこそはうはへにははくゝみけれとらう　くしきたとりあらんとかしこきやうなれと猶あやまりても我ためしたの心ゆかみたらむ人をさも思よらすうらなからむためはひきかへしあはれにいかてかゝるにはとつみえかましきにも思なをる事もあるへしおほろけのむかしのよのあたならぬ人はたかふふし　くあれとひとり　くつみなき時にはをのつからもてなすためしともあるへかめりさしもあるましきことにかとゝしくくせをつけあい行なく人をもてはなるゝ心あるはいとうちとけかたく思くまなきわさになむあるへきおほくはあらねと人の心のとあるさまかゝるおもむきをみゆるにゆへよしといひさま　くに口惜からぬきはの心はせあるへかめりみなをの　くえたるかたありてとる所なくもあらねと又とりたてゝ我うしろみに思ひまめ　くしくえらひ思はんにはありかたきわさになむたゝまことに心のくせなくよきこと

はこのたいをのみなむこれをそおひらかなる人といふへかりけるとなむ思はへるよしとて又あまりひたゝけてたのもしけなきもいとくちおしやとはかりの給ふにかたへの人は思ひやられぬかしそこにこそすこしものゝ心えてものし給めるをいとよしむつひかはしてこの御うしろみをもおなし心にてものし給へなとしのひやかにの給のたまはせねといとありかたき御けしきをみたてまつるまゝにあけくれのことくさにきこえはへるめさましきものになとおほしゆるさゝらんにかうまて御らんししるへきにもあらぬをかたはらいたきまてかすまへの給はすれはかへりてはまはゆくさへなむかすならぬ身のさすかにきえぬはよのきゝみゝもいとくるしくつゝましく思たまへらるゝをつみなきさまにもてかくされたてまつりつゝのみこそときこえ給へはその御ためにはなにの心さしかはあらむたゝこの御ありさまをうちそひてもえみたてまつらぬおほつかなさにゆつりきこえらるゝなめりそれも又とりもちてけちえんになとあらぬ御もてなしともによろつの事なのめにめやすくなれはいとなむおもひなくうれしきはかなきことにてもの心えすひか　くしき人はたちましらふにつけて人のためさへからきことありかしさなをし所なくたれもものし給めれは心やすくなむとの給につけてもさりやよくこそひけしにけれなと思つゝけ給たいへわたり給ぬさもいとやむことなき御心さしのみまさるめるかなけにはた人よりことにかくしもくし給へるありさまのことはりとみえ給へるこそめてたけれ宮の御方うはへの御かしつきのみめてたくてわたり給こともえなのめならさめるはかたしけなきわさなめりかしおなしすちにはおはすれといまひときはゝ心くるしくとしりふこちきこえ給につけても我すくせはいとたけくそおほえ給ひけるやむことなきたにおほすさまにもあらさめるよにましてたちましるへきおほえにしあらねはすへていまはうらめしきふしもなしたゝかのたえこもりにたる山すみを思やるのみそあはれにおほつかなきあま君もたゝふくちのそのにたねまきてとやうなりしひとことをうちたのみてのちのよを思やりつゝなかめゐ給へり大将の君はこのひめ宮の御ことを思をよはぬにしもあらさりしかはめにちかくおはしますをいとたゝにもおほえすおほかたの御かしつきにつけてこなたにはさりぬへきおりおりにまいりなれをのつから御けはひありさまもみきゝ給にいとわかくおほとき給へるひとすちにてうへのきしきはいかめしく世のためしにしつはかりもてかしつきたてまつり給へれとおさ　くけさやかにものふかくはみえす女房なともおとな　くしきはすくなくわかやかなるかたち人のひたふるにうちはなやきされはめるはいとおほくかすしらぬまてつとひさふらひつゝもの思ひなけなる

御あたりとはいひながらなに事ものとやかに心しつめたるは心のうちのあらはにしもみえぬわさなれは身に人しれぬおもひそひたらんも又まことに心ちゆきけにとゝこほりなかるへきにしうちましれはかたへの人にひかれつゝおなしけはひもてなしになたらかなるをたゝあけくれはいはけたるあそひたはふれに心いれたるわらはへのありさまなと院はいとめにつかすみ給事ともあれとひとつさまによの中をおほしの給はぬ御本上なれはかゝるかたをもまかせてさこそはあらまほしからめと御らんしゆるしつゝいましめとゝのへさせ給はすさうしみの御ありさまはかりをはいとよくをしへきこえ給にすこしもてつけ給へりかやうの事を大将の君もけにこそありかたき世なりけれむらさきの御よういけしきのこゝらのとしへぬれとともかくもゝりいてみえきこえたるところなくしつやかなるをもとゝしてさすかに心うつくしう人をもけたす身をもやむことなく心にくくもてなしそへ給へる事とみしおもかけもわすれかたくのみなむ思いてられける我御北のかたもあはれとおほすかたこそふかけれいふかひありすくれたるらう　くしさなとものし給はぬ人なりおたしきものにいまはとめなるゝに心ゆるひて猶かくさま　くにつとひ給へるありさまとものとり　くにおかしけを心ひとつに思はなれかたきをましてこの宮は人の御ほとを思にもかきりなく心ことなる御ほとにとりわきたる御けしきにしもあらす人めのかさりはかりにこそとみたてまつりしるわさとおほけなき心にしもあらねとみたてまつるおりありなむやとゆかしく思きこえ給けり衛門のかむの君も院につねにまいりしたしくさふらひなれ給し人なれはこの宮をちゝみかとのかしつきあかめたてまつり給し御心をきてなとくはしくみたてまつりをきてさま　くの御さためありしころをひよりきこえより院にもめさましとはおほしの給はせすときゝしをかくことさまになり給へるはいとくちおしくむねいたき心ちすれはなをえおもひはなれすそのおりよりかたらひつきにける女房のたよりに御ありさまなともきゝつたふるをなくさめに思ふそはかなかりけるたいのうへの御けはひには猶おされ給てなんとよ人もまねひつたふるをきゝてはかたしけなくともさる物はおもはせたてまつらさらましけにたくひなき御身にこそあたらさらめとつねにこの小侍従といふ御ちぬしをもいひはけまして世中さためなきをおとゝの君もとよりほいありておほしをきてたるかたにおもむき給はゝとたゆみなく思ありきけりやよひはかりのそらうらゝかなる日六条院に兵部卿宮衛門督なとまいり給へりおとゝいて給て御物かたりなとし給しつかなるすまゐはこのころこそいとつれつれにまきるゝことなかりけれおほやけわたくしにことなしやなにわさしてか

はくらすへきなとの給てけさ大将のものしつるはいつかたにそいとさう　くしきをれいのこゆみいさせてみるへかりけりこのむめるわかうとともゝみえつるをねたういてやしぬるとゝはせ給大将の君はうしとらのまちに人〻あまたしてまりもてあそはしてみ給ときこしめしてみたれかはしきことのさすかにめさめてかと　くしきそかしいつらこなたにとて御せうそこあれはまいり給へりわかきむたちめく人〻おほかりけりまりもたせ給へりやたれ　くかものしつるとの給ふこれかれはへりつこなたへまかてんやとの給てしんてんのひんかしおもてきりつほはわか宮くしたてまつりてまいり給いにしころなれはこなたかくろへたりけりやり水なとのゆきあひはれてよしあるかゝりの程をたつねてたちいつおほきおほいとのゝ君たち頭弁兵衛佐大夫の君なとすくしたるも又かたなりなるもさま　くに人よりまさりてのみものし給やう　くくれかゝるに風ふかすかしこき日なりとけうして弁の君もえしつめすたちましれはおとゝ弁官もえおさめあへさめるをかんたちめなりともわかきゑふつかさたちはなとかみたれ給はさらむかはかりのよはひにてはあやしくみすくす口惜くおほえしわさなりさるはいときやう　くなりやこのことのさまよなとの給に大将もかんの君もみなおり給てえならぬ花のかけにさまよひ給ふゆふはへいときよけなりおさ　くさまよくしつかならぬみたれことなめれと所から人からなりけりゆへある庭のこたちのいたくかすみこめたるにいろいろひもときわたる花の木ともわつかなるもえきのかけにかくはかなき事なれとよきあしきけちめあるをいとみつゝわれもをとらしと思ひかほなる中に衛門督のかりそめにたちましり給へるあしもとにならふ人なかりけりかたちいときよけになまめきたるさましたる人のよういいたくしてさすかにみたりかはしきおかしくみゆみはしのまにあたれるさくらのかけによりて人〻花のうへもわすれて心にいれたるをおとゝも宮もすみのかうらにいてゝ御覧すいとらうある心はへともみえてかすおほくなり行に上らうもみたれてかうふりのひたいすこしくつろきたり大将の君も御くらゐの程思こそれいならぬみたりかはしさかなとおほゆれみるめは人よりけにわかくおかしけにてさくらのなをしのやゝなえたるにさしぬきのすそつかたすこしふくみてけしきはかりひきあけ給へりかろ　くしうもみえす物きよけなるうちとけすかたに花の雪のやうにふりかゝれはうちみあけてしほれたる枝すこしをしおりてみはしのなかのしなの程にゐ給ぬかんの君つゝきて花みたりかはしくちるめりやさくらはよきてこそなとの給つゝ宮の御まへのかたをしりめにみれはれいのことにおさまらぬけはひともしていろ　くこほれいてたるみすのつますきかけな

と春のたむけのぬさふくろにやとおほゆ御木丁ともしとけなくひきやりつゝ人けちかくよつきてそみゆるにからねこのいとちいさくおかしけなるをすこしおほきなるねこをひつゝきてにはかにみすのつまよりはしりいつるに人〻おひえさはきてそよ　くとみしろきさまよふけはひとももきぬのをとなひみゝかしかましき心ちすねこはまたよく人にもなつかぬにやつないとなかくつきたりけるをものにひきかけまつはれにけるをにけんとひこしろふほとにみすのそはいとあらはにひきあけられたるをとみにひきなをす人もなしこのはしらのもとにありつるひと　くも心あはたゝしけにて物おちしたるけはひともなり木丁のきはすこしいりたる程にうちきすかたにてたち給へる人ありはしよりにしの二のまのひんかしのそはなれはまきれ所もなくあらはにみいれらるこうはいにやあらむこきうすきすき　くにあまたかさなりたるけちめはなやかにさうしのつまのやうにみえてさくらのをりものゝほそなかなるへし御くしのすそまてけさやかにみゆるはいとをよりかけたるやうになひきてすそのふさやかにそかれたるいとうつくしけにて七八寸はかりそあまり給へる御そのすそかちにいとほそくさゝやかにてすかたつきかみのかゝり給へるそはめいひしらすあてにらうたけなりゆふかけなれはさやかならすおくくらき心ちするもいとあかすくちおしまりに身をなくるわか君たちの花のちるをおしみもあえぬけしきともをみるとて人〻あらはをふともえみつけぬなるへしねこのいたくなけはみかへり給へるをももちもてなしなといと老らかにてわかくうつくしの人やとふとみえたり大将いとかたはらいたけれとはひよらむも中　くいとかる　くしけれはたゝ心をえさせてうちしはふき給へるにそやをらひきいり給さるは我心ちにもいとあかぬ心ちし給へとねこのつなゆるしつれは心にもあらすうちなけかるましてさはかり心をしめたる衛門の督はむねふとふたかりてたれはかりにかはあらんこゝらの中にしるきうちきすかたよりも人にまきるへくもあらさりつる御けはひなと心にかゝりておほゆさらぬかほにもてなしたれとまさにめとゝめしやと大将はいとおしくおほさるわりなき心ちのなくさめにねこをまねきよせてかきいたきたれはいとかうはしくてらうたけにうちなくもなつかしく思ひよそへらるゝそすき　くしきやおとゝ御覧しおこせてかんたちめの座いとかろ　くしやこなたにこそとてたいのみなみおもてにいり給へれはみなそなたにまいり給ぬ宮もゐなをり給て御物かたりし給つき　くの殿上人はすのこにわらうためしてわさとなくつはいもちゐなしかうしやうの物ともさま　くにはこのふたともにとりませつゝあるをわかき人〻そほれとりくふさるへきから物はかりして御かはらけまい

る衛門督はいといたく思しめりてやゝもすれは花の木にめをつけてなかめやる
大将は心しりにあやしかりつるみすのすきかけ思いつることやあらむと思給い
とはしちかなりつるありさまをかつはかろ　くしとおもふらんかしいてやこな
たの御ありさまのさはあるましかめる物をとおもふにかゝれはこそ世のおほえ
の程よりはうち　くの御心さしぬるきやうにはありけれと思あはせて猶うちと
のよういおほからすいはけなきはらうたきやうなれとうしろめたきやうなりや
と思おとさるさいしやうの君はよろつのつみをもおさ　くたとられすおほえぬ
物のひまよりほのかにもそれとみたてまつりつるにも我むかしよりの心さしの
しるしあるへきにやと契うれしき心ちしてあかすのみおほゆ院はむかしものか
たりしいて給ておほきおとゝのよろつの事にたちならひてかちまけのさためし
給し中にまりなんえをよはすなりにしはかなきことはつたへあるましけれと物
のすちは猶こよなかりけりいとめもをよはすかしこうこそみえつれとの給へは
うちほゝえみてはか　くしきかたにはぬるく侍るいへの風のさしも吹つたへ侍
らんにのちの世のためことなることなくこそはへりぬへけれと申給へはいかて
かなに事も人にことなるけちめをはしるしつたふへきなりいへのつたへなとに
かきとゝめいれたらんこそけうはあらめなとたはふれ給御さまのにほひやかに
きよらなるをみたてまつるにもかゝる人にならひていかはかりの事にか心をう
つす人はものし給はんなにことにつけてかあはれとみゆるしたまふはかりはな
ひかしきこゆへきと思めくらすにいとゝこよなく御あたりはるかなるへき身の
程も思しらるれはむねのみふたかりてまかりて給ぬ大将の君ひとつ車にてみち
のほと物かたりし給猶このころのつれ　くにはこの院にまいりてまきらはすへ
きなりけりけふのやうならんいとまのひまゝちつけて花のおりすくさすまいれ
との給つるを春おしみかてら月の中にこゆみもたせてまいり給へとかたらひち
きるをの　くわかるゝみちのほとものかたりしたまふて宮の御事の猶いはまほ
しけれは院には猶このたいにのみものせさせ給なめりなかのおほんおほえのこ
となるなめりかしこの宮いかにおほすらんみかとのならひなくならはしたてま
つり給へるにさしもあらてくし給にたらんこそ心くるしけれとあいなくいへは
たい　くしきこといかてかさはあらむこなたはさまかはりておほしたて給へる
むつひのけちめはかりにこそあへかめれ宮をはかた　くにつけていとやむこと
なく思きこえ給へるものをとかたり給へはいてあなかま給へみなきゝてもはへ
りいと　くおしけなるおり　くあなるをやさるはよにおしなへたらぬ人の御お
ほえをありかたきわさなりやといとほしかる

いかなれは花にこつたふうくひすの桜をわきてねくらとはせぬ春の鳥の桜

ひとつにとまらぬこゝろよあやしとおほゆる事そかしとくちすさひにいへはいてあなあちきなの物あつかひやされはよと思ふ

み山木にねくらさたむるはこ鳥もいかてか花のいろにあくへきわりなきことひたおもむきにのみやはといらへてわつらはしけれはことにいはせすなりぬこと事にいひまきらはしてをの　くわかれぬかむの君は猶おほいとのゝひんかしのたいにひとりすみにてそものし給けるおもふ心ありてとしころかゝるすまゐをするに人やりならすさう　くしく心ほそきおり　くあれと我身かはかりにてなとか思ふことかなはさらむとのみ心おこりをするにこのゆふへよりくしいたく物思はしくていかならむおりに又さはかりにてもほのかなる御ありさまをたにみむともかくもかきまきれたるきはの人こそかりそめにもたはやすきものいみかたゝかへのうつろひもかろ　くしきにをのつからともかくもものゝひまをうかゝひつくるやうもあれなと思やるかたなくふかきまとのうちになにはかりの事につけてかゝくふかき心ありけりとたにしらせたてまつるへきとむねいたくいふせけれは小侍従かりれいのふみやり給ふ一日風にさそはれてみかきのはらをわけいりて侍しにいとゝいかにみおとし給けんそのゆふへよりみたり心ちかきくらしあやなくけふをなかめくらし侍なとかきて

よそにみておらぬなけきはしけれともなこりこひしき花の夕かけとあれと一日の心もしらぬはたゝよのつねのなかめにこそはと思ふおまへに人しけからぬ程なれはかのふみをもてまいりてこの人のかくのみわすれぬ物にことゝひものし給こそわつらはしく侍れ心くるしけなるありさまもみ給へあまる心もやそひはへらんと身つからの心なからしりかたくなむとうちわらひてきこゆれはいとうたてあることをもいふ哉となに心もなけにの給てふみひろけたるを御覧すみもせぬといひたるところをあさましかりしみすのつまをおほしあはせらるゝに御おもてあかみておとゝのさはかりことのついてことに大将にみえ給ないはけなき御ありさまなめれはをのつからとりはつしてみたてまつるやうもありなむといましめきこえ給をおほしいつるに大将のさる事のありしとかたりきこえたらん時いかにあはめ給はんと人のみたてまつりけん事をはおほさてまつはゝかりきこえ給心のうちそをさなかりけるつねよりもおほんさしらへなけれはすさましくしゐてきこゆへきことにもあらねはひきしのひてれいのかく一日はつれなしかほゝなむめさましうとゆるしきこえさりしをみすもあらぬやいかにあなかけ　くしとはやりかにはしりかきて

いまさらに色にないてそ山さくらをよはぬ枝に心かけきとかひなきことをとあり